RIDING SIMULATOR

Honda
ライディングシミュレーター

取扱説明書

HONDA

ご使用の前に

このたびは、Hondaライディングシミュレーターをお買いあげいただきありがとうございました。ご使用の前に、シミュレーターの機能を十分活かしてご使用いただくために、この「取扱説明書」を最後までお読みください。

- この取扱説明書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。
- この取扱説明書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- この取扱説明書の内容について万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点などお気付きになりましたら、お手数ですが当社までご連絡ください。
- 乱丁、落丁の場合には、お取り替えいたします。

この取扱説明書には、シミュレーターの正しい取り扱い方、安全な操作、簡単な点検の方法などについて説明してあります。この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、ご使用される方や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、下記の表示をしています。また、その表示のあとに適切な方法を明示しています。

安全に関する表示

警告 この指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるものを示してあります。

注意 この指示に従わないと、傷害を受ける可能性、および物的な損害発生の可能性があるものを示してあります。

その他の表示

このシミュレーターを取り扱ううえで、守っていただきたいこと、その中で、シミュレーターが故障、破損するのを防ぐためのアドバイスなどを記載しています。

お願い
異常が発生したときに知っておいていただきたいこと。

お知らせ
機器を正しく安心してお使いいただくために必要な情報です。

安全のために

移動・運搬について

⚠ 警告

このシミュレーターは、非常に重い物です。運搬時に落下した場合、身体に重大な傷害を負い、死に至ることがあります。
移動、運搬は、専門の業者に依頼してください。

設置について

⚠ 警告

不安定な台の上、床面が傾いた所など設置場所が悪い場合、倒壊、落下、転倒の危険があり、身体に重大な傷害を負い、死に至ることがあります。
設置場所は、水平な場所を選んで設置してください。
（シミュレーターの周りに人が多く集まったり、周辺に重い備品等を置くと、荷重が変わってきます）

電源について

⚠ 警告

内部に高い電圧がかかっている部分があるため、スクリーン部のカバーは、指示のないときには開けないでください。
また、専用のコンセント以外のものを使用したり、アース工事をしないで使用した場合、感電や漏電による火災の危険があり、身体に重大な傷害を負い、死に至ることがあります。
使用の際は、専用のコンセントを取り付け、必ずアース工事を行ったうえでご使用ください。また、内部の保守、点検などは、当社のサービスマンにお任せください。

使用環境について

⚠ 注意

直射日光の当たるところや高温の場所、および湿気やほこりの多い場所での使用は、機器の故障の原因となるばかりではなく、他の物に損害を与えることがあります。
使用の際は、室温15～30℃（保存温度－15～50℃）、湿度20～80%（結露なきこと）の状態でご使用下さい。

指導中の対応について

⚠ 注意

シミュレーター乗車中に気分が悪くなることがあります。
使用中気分が悪くなった方がいましたら、無理をせず乗車を中止するようご指導ください。
また、次にあげる方は乗車をご遠慮願うようにご指導ください。

- ●血圧に異常または重度の疾病がある方
- ●心臓や脳の病気を指摘されている方
- ●妊娠中の方
- ●睡眠不足や疲労による気分不快感、心身の異常を感じられる方

安全装備について

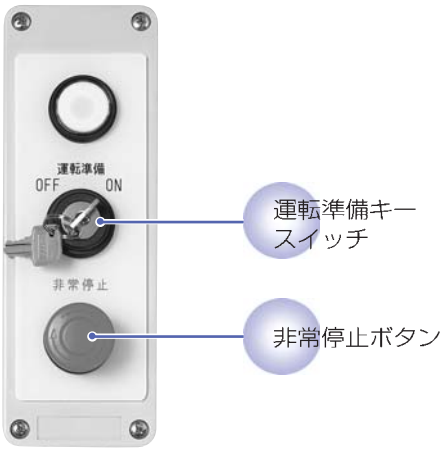
このシミュレーターは、使用中の万一の故障（シミュレーター内部の断線、暴走など）が発生した場合でも安全に回避するために、シミュレーターを停止させる以下の機能があります。また、機器の安全管理のためにキー（鍵）の取り扱いを定めています。

非常停止ボタンと一時停止のためのスイッチ

予期せぬ動き（振動など）が生じた場合、非常停止ボタンを押すと動作が停止します。オペレーションデスクの右側にあるキノコ型をした赤色の非常停止ボタン（右図）が押されると、モーターサイクルユニットの動作が停止し、ボタンはロックします。

また、運転準備キースイッチをOFF側にすると、モーターサイクルユニットに一時的に電源が入らない状態にしておくことができます。席を離れるときはOFF側にし、必ずキーを抜いてください。

以上、詳しくは「安全装置の作動と復帰」の章を参照してください。



（可動部電源ボックス）

「運転準備キー」と「主電源スイッチ扉キー」は、一体で管理してください。また、モーターサイクル部の「メインスイッチキー」も含めて、キーの管理を確実な方法で行ってください。

動作範囲の制限

このシミュレーターは、各軸の動作範囲を制限しています。安全上、この範囲を超えて動くことはありません。

軸名称	動作範囲
ロール軸	± 15°
ピッチ軸	± 10°
ステア軸	± 25°

モーターサイクルユニットの自動電源遮断機能

各軸モーターそれぞれについて、モーターの過負荷などの異常を検出した場合、電源を自動で切りシミュレーターを停止させます。

⚠ 警告

改造等は絶対に行わないでください。
改造を行うと万一の時に装備している安全装置が働かなくなる可能性があります。
安全装置が働かないと身体に重大な傷害を負うことがあります。

⚠ 注意

ハンドル周りなどのメカ部分に手指や物を入れないでください。
メカ部に挟まれる危険があり、身体に傷害を負うことがあります。

機器の取扱注意事項

＊ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

停電時の対応について

シミュレーターを使用中に停電があった場合は、ただちに主電源スイッチをOFFにして、停電が復帰した後にシステム起動を行ってください。（起動のしかたは「システム起動」の項を参照してください）

停電などでシステム終了せずに電源をOFFした場合は、次の起動時に「システムチェックのため起動時間が長くかかる場合があります」というメッセージを表示します。この場合は、メッセージにしたがってください。

カラーモニターについて

- カラーモニターの電源スイッチは切らずに、シミュレーター本体の主電源スイッチで入り切りしてください。

プロジェクターについて

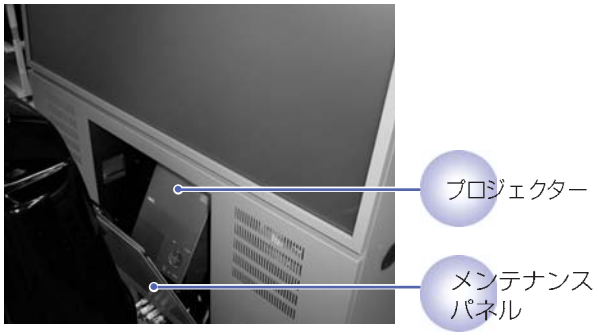
- プロジェクターは、スクリーンに正しく映像が映るように調整済みです。アジャスタ調整や投射角度の調整をくるわすと、正常な映像が映らない場合があります。
- プロジェクターは内部に熱源があり、冷却ファンが回転しています。システム終了時は、カラーモニター上のメッセージにしたがってください。
- 光源に使用されているランプを交換する際は、ランプのバルブ（ガラス部）に触れないでください。高温のためやけどの危険性があります。また、油脂が付着するとランプをいためるおそれがあります。
- ほこりに注意してください。フィルターが目詰まりすると、内部温度が上昇し、システムが停止する場合があります。（フィルターの清掃についてはプロジェクターの取扱説明書の「フィルタの清掃と交換」の項を参照してください）

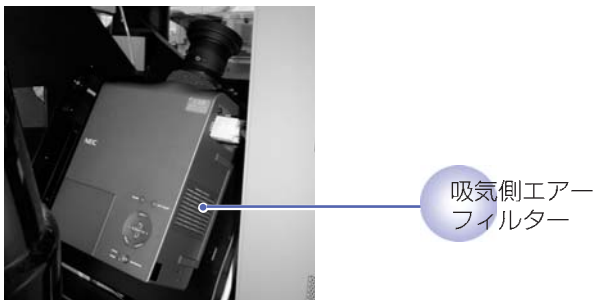
主電源スイッチをOFFにしたとき（停電時も含む）は、必ず1分以上たってからONにしてください。装置が正常に起動しない場合があります。

お願い

停電復帰後に電源スイッチを入れてもシステム起動できない場合は、当社までご連絡ください。

電源スイッチは切らない





目　次

1　各部の名称と基本操作 …… 1
1-1　各部の名称 …… 1
1-2　車体部の変更 …… 4
1-3　基本操作 …… 6
1-4　システム構成と画面フロー …… 9
2　システム起動 …… 10
2-1　起動のしかた …… 10
3　走行条件設定画面の操作 …… 12
3-1　画面の構成 …… 12
3-2　操作手順とソフト教材の構成 …… 13
3-3　各設定パネルの名称とはたらき …… 14
4　コース走行画面の操作 …… 18
4-1　画面の構成 …… 18
4-2　走行画面の名称とはたらき …… 19
5　マルチアイシステム（走行再生機能） …… 26
5-1　視点モードの種類 …… 26
5-2　操作手順 …… 27
5-3　ファイル選択パネルの名称とはたらき …… 28
5-4　再生操作の名称とはたらき …… 30
5-5　視点移動操作 …… 31
5-6　視点切り替え方法 …… 32
6　システム終了 …… 33
6-1　終了のしかた …… 33
7　復帰操作と保護動作 …… 34
7-1　非常停止と運転準備 …… 34
7-2　エラーの検出と解除 …… 35
7-3　エラーコード一覧表 …… 36
8　保守と点検 …… 41
8-1　保守について …… 41
8-2　故障と思ったら …… 46
8-3　点検について …… 49

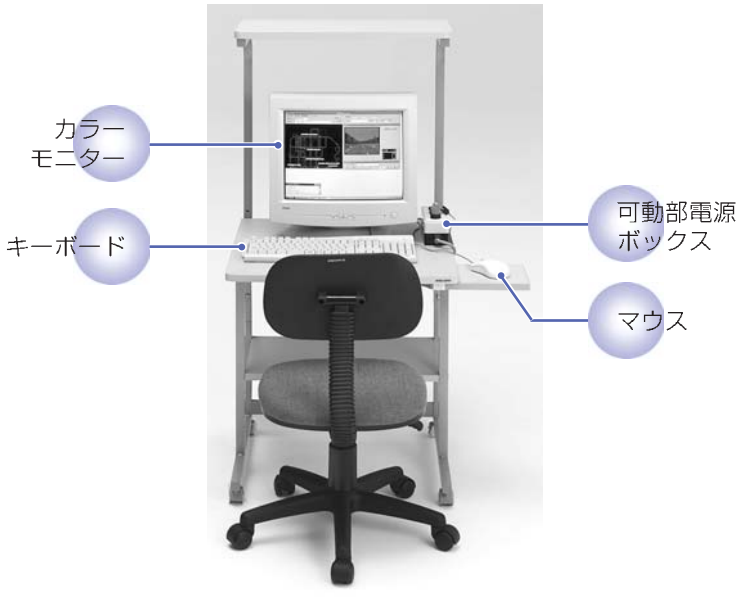
仕様 …… 50
付録 ●日常点検チェックシート …… 51
●ご依頼・お問い合わせ用紙 …… 52
索引 …… 53
保証とアフターサービスのご案内 …… 55

1. 各部の名称と基本操作

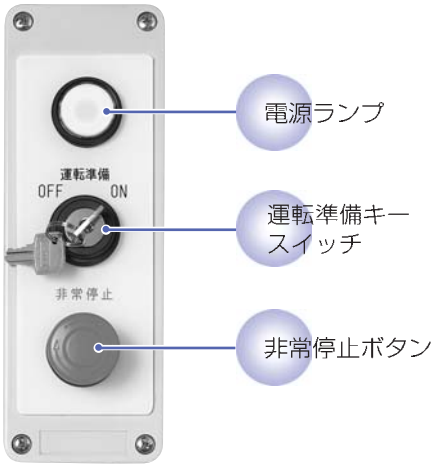
1-1　各部の名称

このシミュレーターは、乗車部であるモータサイクル部、スクリーン部、指導員が操作するオペレーションデスクから構成されています。

（全体構成図）



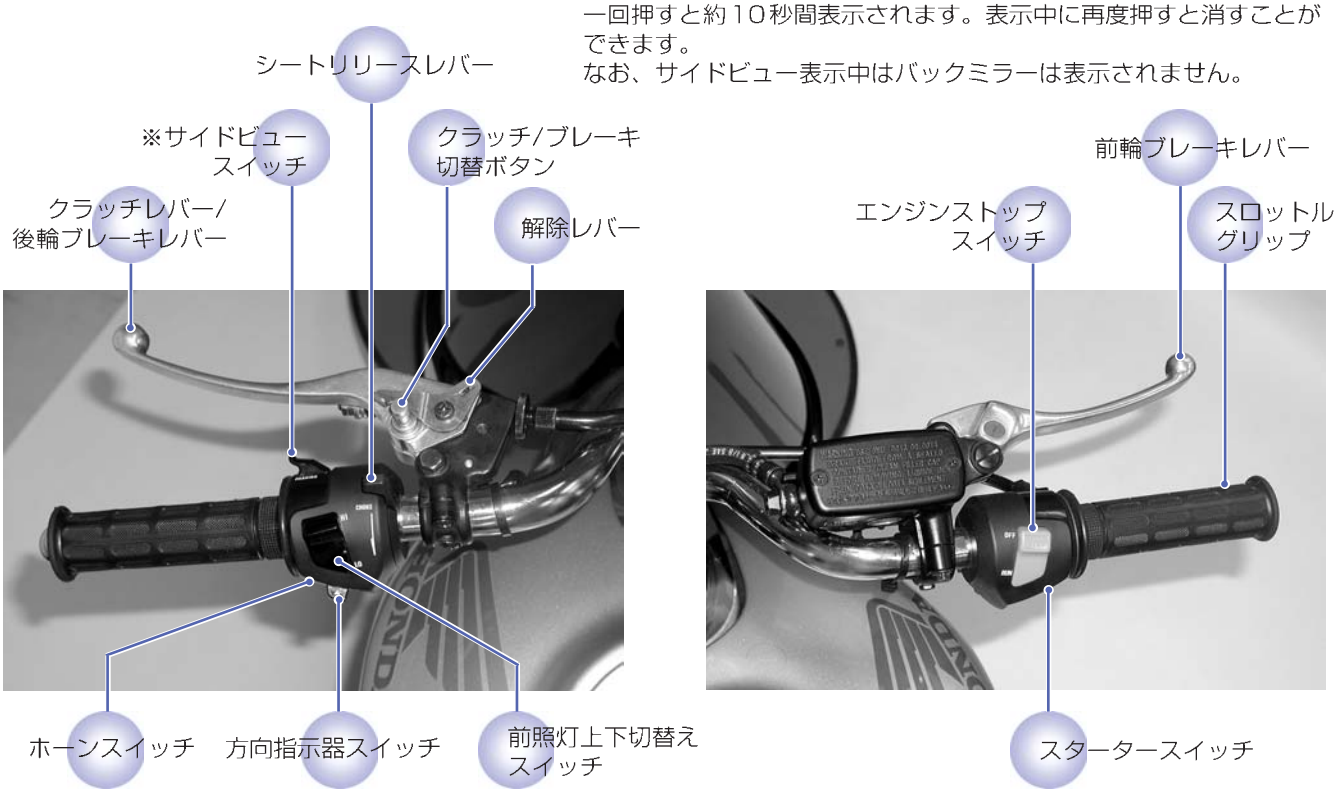
（オペレーションデスク）



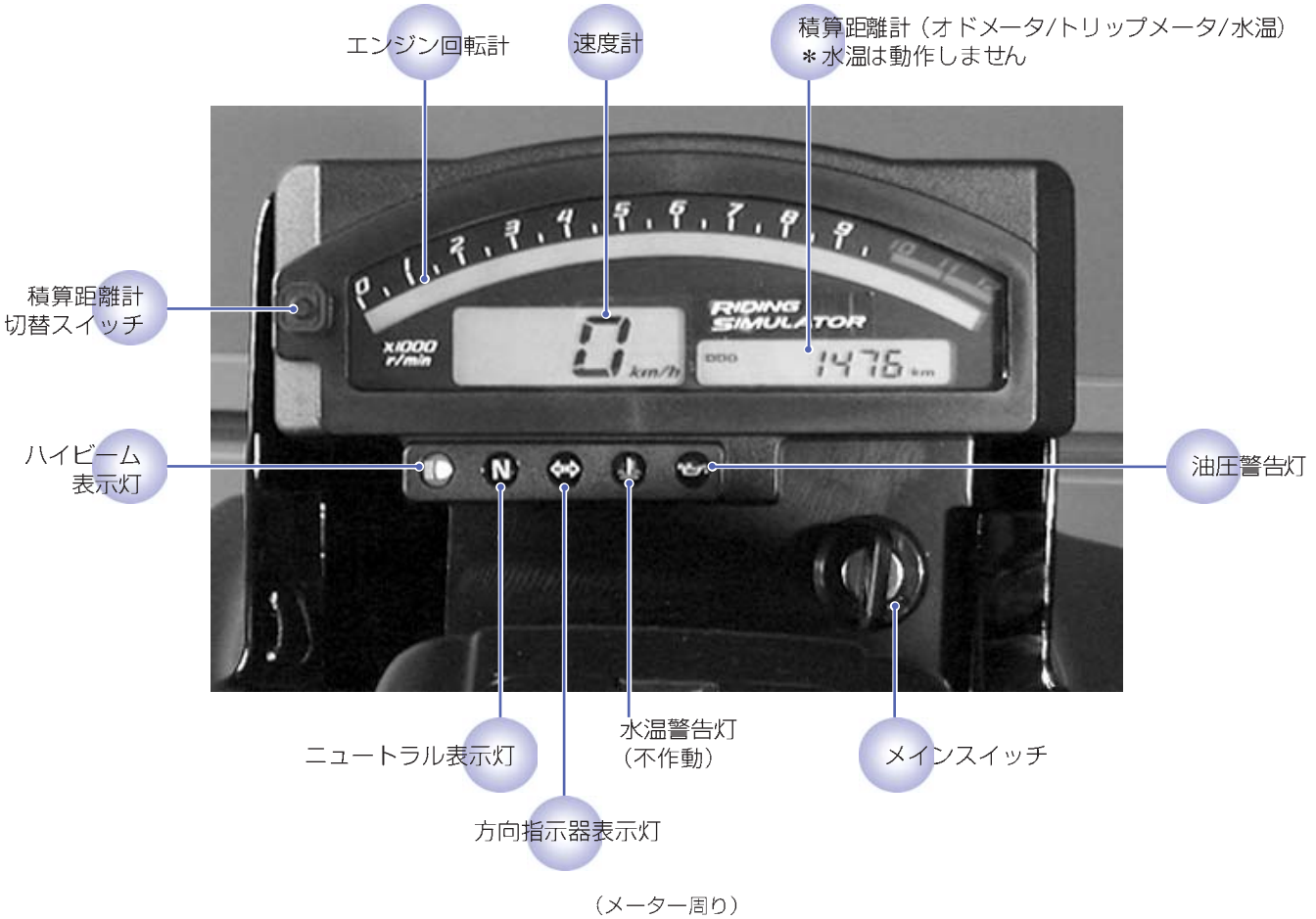
（可動部電源ボックス）

各部の名称と基本操作

※サイドビュースイッチの機能と操作
一時停止交差点などでの、左右安全確認用として左右方向の映像をスクリーン上に表示できます。
一回押すと約10秒間表示されます。表示中に再度押すと消すことができます。
なお、サイドビュー表示中はバックミラーは表示されません。

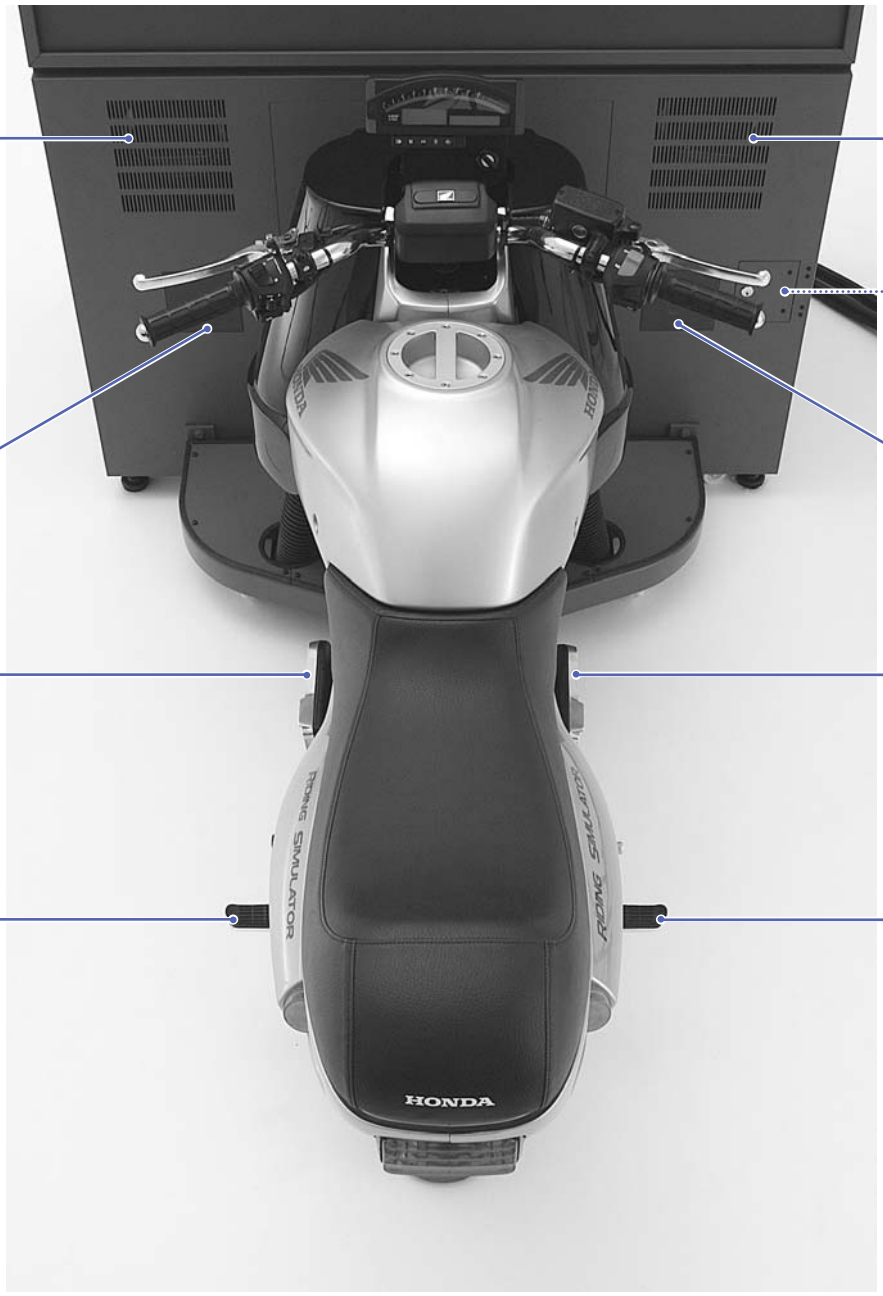


（ハンドル周り）



（メーター周り）

各部の名称と基本操作



（主電源スイッチ）

（モーターサイクル/スピーカー周り）

（自動二輪仕様時）

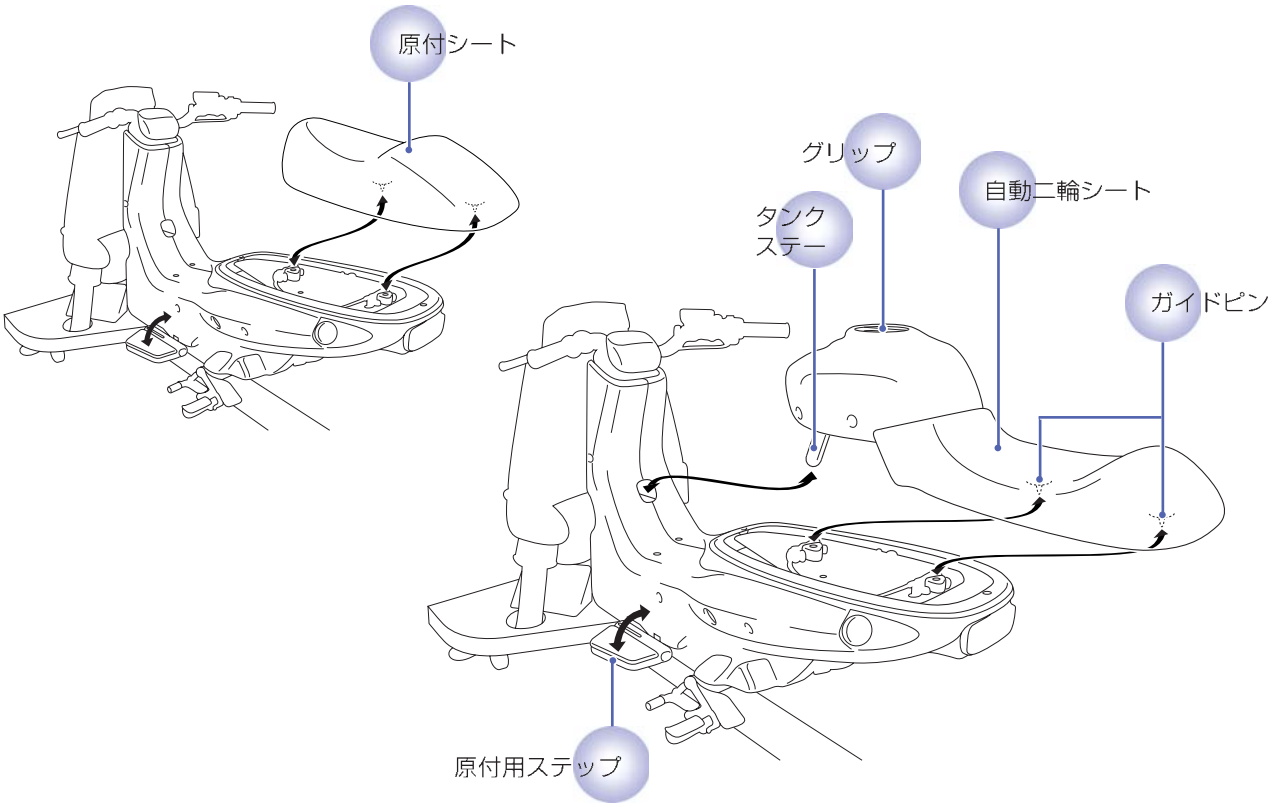
（原付仕様時）

1-2 車体部の変更

自動二輪と原付切り替えの流れ

シート タンク部の 交換 ▶ ステップ 変更 ▶ クラッチ/ ブレーキ 切り替え ▶ ソフト 「ミッション： 車種」 切り替え

1. シート、タンク部の交換/ステップ変更



●原付から自動二輪に切り替える。

1. シートリリースレバーを手前に引き、原付シートを持ち上げて外す。
2. 自動二輪シートの後部とタンクキャップを持ちタンクステーを乗車部の穴に通す。
3. シート座面のガイドピン２本を乗車部のピン穴に合わせシートを押し下げる。

●自動二輪から原付に切り替える。

1. シートリリースレバーを手前に引き、シート後部を少し持ち上げる。
2. タンクキャップ部のグリップを持ちタンクステーを抜き出してシートを外す。
3. 原付シート底面のガイドピン２本を乗車部のピン穴に合わせシートを押し下げる。

> ! シートが確実に装着されていることを確認して下さい。
> 装着が不適切な場合は、乗車感覚が変わります。

● 原付での運用は、左右の原付用ステップを開いて使用します。

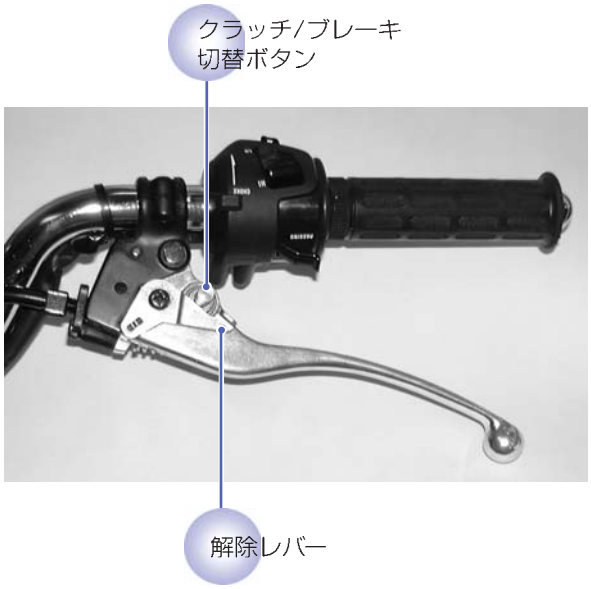
2. クラッチ・ブレーキレバー切り替え

●自動二輪から原付への切り替え

クラッチ/ブレーキ切り替えボタンを押す。

●原付から自動二輪への切り替え

左レバーの解除レバーを押し、クラッチに切り替える。



（自動二輪から原付として乗車する場合）
クラッチを必ずブレーキに切り替えて下さい。切り替えを忘れると、ブレーキング時の操作感覚が実車と大きく異なります。

（原付から自動二輪として乗車する場合）
ブレーキを必ずクラッチに切り替えて下さい。解除レバーの切り替えを忘れると、クラッチが切れにくくなります。

3. ソフト「ミッション：車種」切り替え

●車種の選択

走行条件設定パネルのミッション選択ボタン①
　自動二輪：MT（自二）をクリックする。
　原付：　　AT（原付）をクリックする。

・車種メニューボタン②でも選択できます。

①ミッション選択ボタンと機能

AT
・オートマチックミッション
・車種：原付

MT
・マニュアルミッション
・車種：自動二輪（大型・普通）

②車種メニューボタン
・大型/普通/原付（AT）

（走行条件設定パネル）

※ 走行条件設定パネルの開き方は、12頁を参照してください。

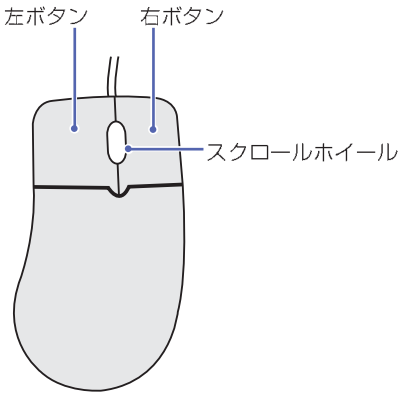
1-3 基本操作

マウスの操作

このシミュレーターは、ほとんどの操作をマウスによって行うことができます。

マウスの持ち方

マウスは右図の方向に置き、手のひらで包むように持ってください。コードが出ている側にボタンが２つあり、これらのボタンに指を軽く添えてください。
このとき、体を画面に対して正面に向けてください。



（マウス）

スクロールホイールの使い方

ホイールを回して、一覧表などの標示項目を上下に移動（スクロール）できます。

マウスカーソル（カーソル）

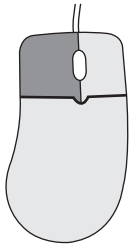
マウスをオペレーションデスク上ですべらすように動かすと、カラーモニター画面上に小さな矢印が移動します。これをマウスカーソルまたはカーソルと呼びます。

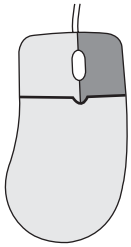
（カーソル）

マウスクリック（クリック）

マウスを動かしてマウスカーソルをカラーモニター画面の中の描画ボタン（アイコン）などに移動してマウスのボタンを押し、すぐ離すことをマウスクリックまたはクリックといいます。
左側のボタンを左クリック、右側のボタンを右クリック、左クリックを続けて２回クリックすることをダブルクリックと呼びます。

＊アイコンとは、機能を記号化したシンボルです。

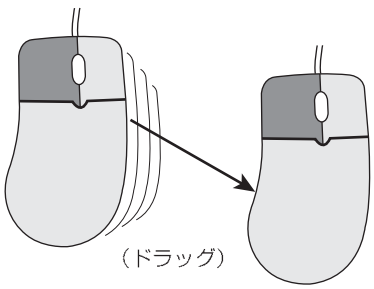

（左クリック）


（右クリック）

（アイコン）

マウスドラッグ（ドラッグ）

マウスのボタンを左クリックしたままマウスを動かし、目的の位置で離すことをマウスドラッグまたはドラッグと呼びます。


（ドラッグ）

キーボードの操作

受講生の受講No.または氏名を入力するときにキーボードを使用します。

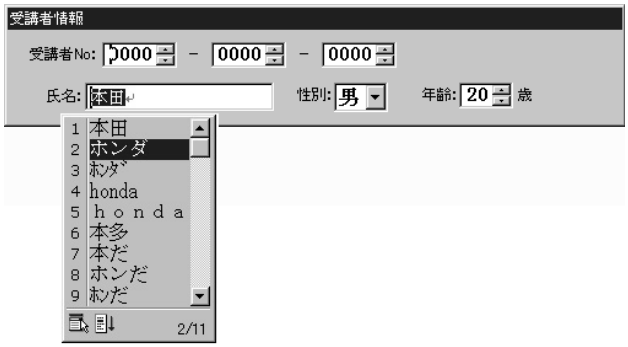
■入力例

1 入力する箇所（氏名入力窓：図a）にカーソルを移動します。カーソルが入力窓に入ると、↖ から I に変わります。

（図a）

2 左クリックすると、入力窓が入力可能となり、入力部が点滅します。

3 キーボードから氏名を入力します。
ローマ字入力の場合：
（例）[H][O][N][D][A]（HONDA）

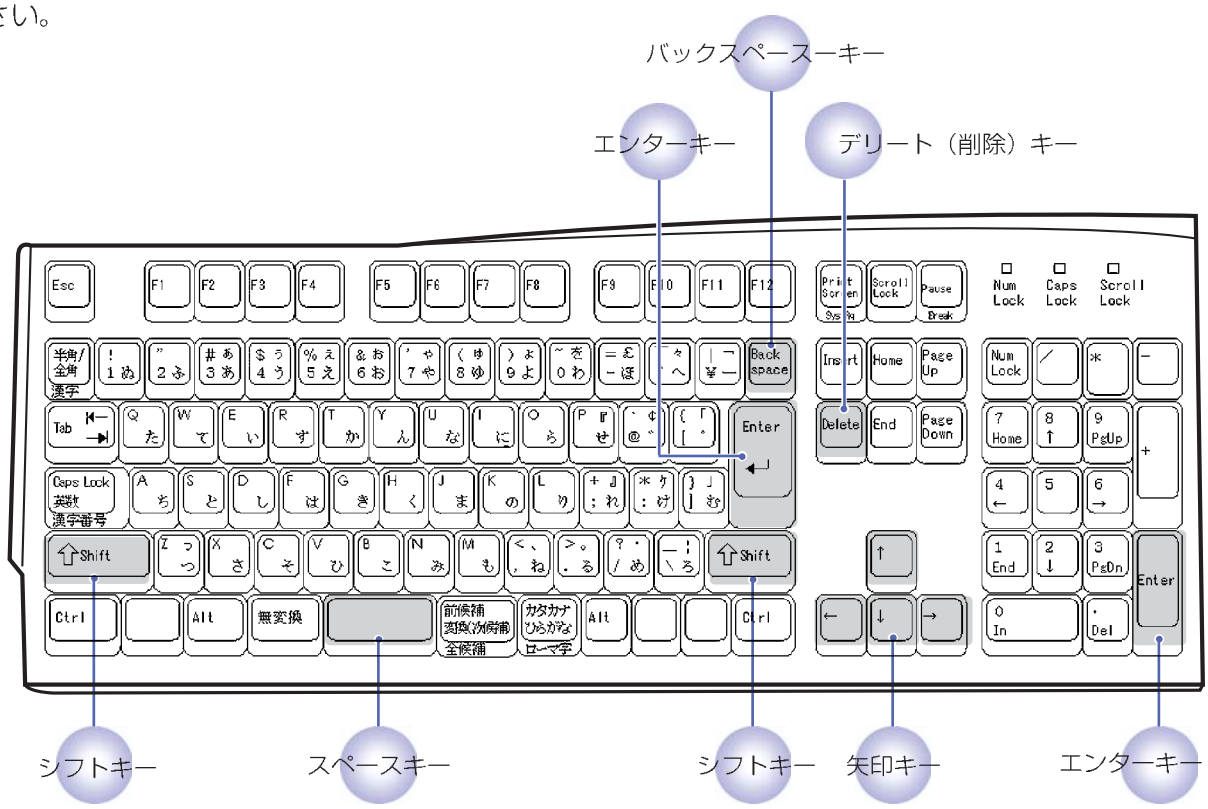


（図b）

4 [　　] スペースキーを押して、漢字変換をします。
該当する漢字でないときは、再度スペースキーを押すと、漢字メニューが表示されます。（図b）

5 該当漢字を数字キーかスペースキーで選んで、[Enter] エンターキーを押します。

＊詳しくは「日本語入力マニュアル」を参照ください。

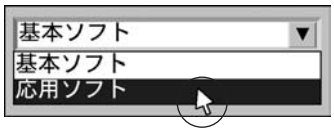


画面の操作

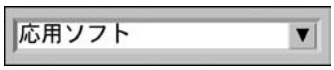
下向き矢印ボタン時の操作

ボタンにカーソルを合わせ左クリックすると、あらかじめ設定されている選択メニューが表示されます。（図ｃ）
マウスを前後に動かし、カーソルを選択したい項目に移動します。このとき、選択された項目は反転表示になります。（図ｄ）
左クリックすることで、決定します。（図ｅ）

（図ｃ）



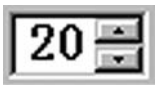
（図ｄ）



（図ｅ）

上下矢印ボタン時の操作Ⅰ（図ｆ）

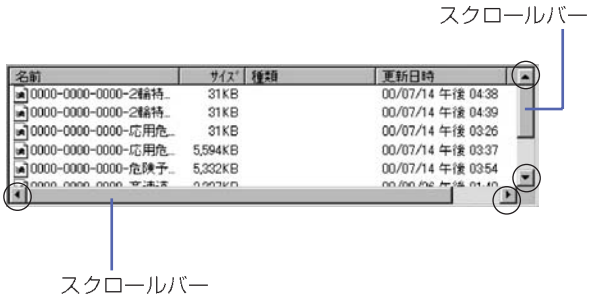
上向きの矢印ボタンにカーソルを合わせ左クリックすると、数字が大きくなります。
下向きの矢印ボタンにカーソルを合わせ左クリックすると、数字が小さくなります。



（図ｆ）

上下矢印ボタン時の操作Ⅱ（図ｇ）

上向きの矢印ボタンにカーソルを合わせ左クリックすると、上位の項目を表示していきます。
下向きの矢印ボタンにカーソルを合わせ左クリックすると、下位の項目を表示していきます。
スクロールバーにカーソルを合わせ左クリックしたままマウスを前後に動かしてもできます。（ドラッグ）



（図ｇ）

左右矢印ボタン時の操作（図ｇ）

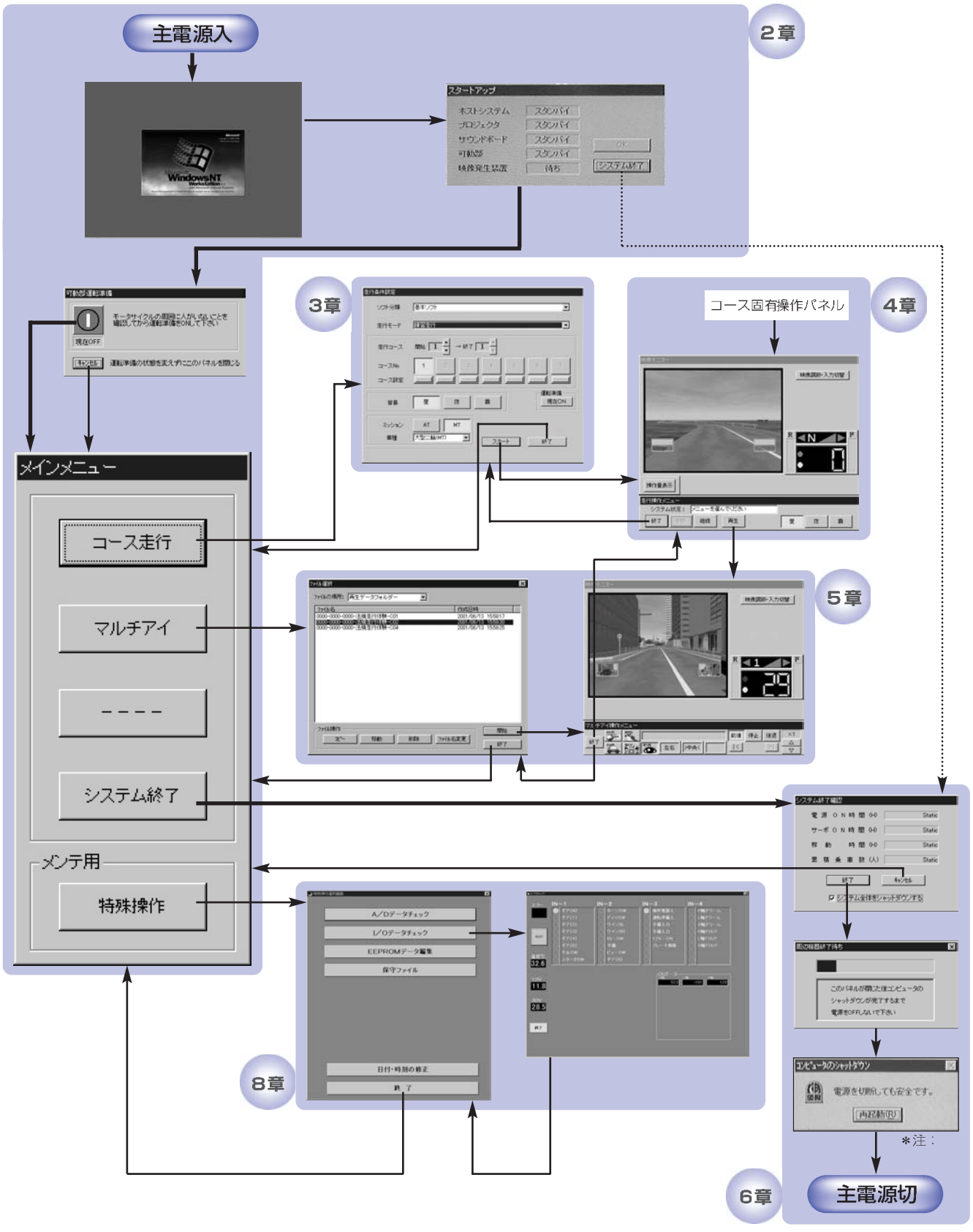
左向きの矢印ボタンにカーソルを合わせ左クリックすると、左側の内容を表示していきます。
右向きの矢印ボタンにカーソルを合わせ左クリックすると、右側の内容を表示していきます。
スクロールバーにカーソルを合わせ左クリックしたままマウスを左右に動かしてもできます。（ドラッグ）

その他のボタン操作（図ｈ）

数字、名称、アイコン等が表記されているボタンについては、カーソルを選択したいボタンに合わせ左クリックします。
押されるとボタンが凹状態になり、決定されます。選択ボタンは、２つ以上同時に選択することはできません。

（図ｈ）

1-4 システム構成と画面フロー



*注： 再起動ボタンはクリックしないでください。
誤ってクリックするとシステム終了確認パネルに戻ります。

2-1 起動のしかた

1. 主電源を入れる

スクリーン部の正面右側にある主電源スイッチ扉を開き、主電源スイッチを上側（ON）にします。このとき、オペレーションデスクの電源ランプが点灯することを確認してください。

（主電源スイッチ）

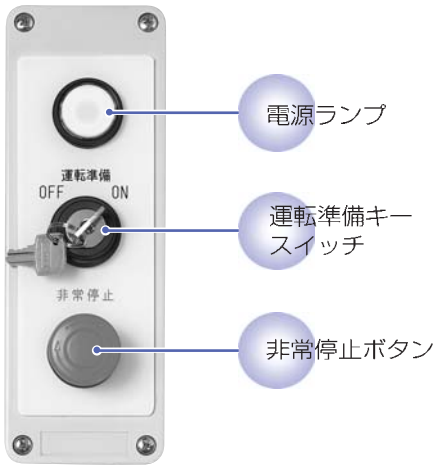
電源を入れてしばらくすると、カラーモニターにWindows NT の起動画面が表示されます。

（Windows NT 起動画面）

さらにシミュレーター制御プログラムが起動します。

2. 運転準備キースイッチを入れる

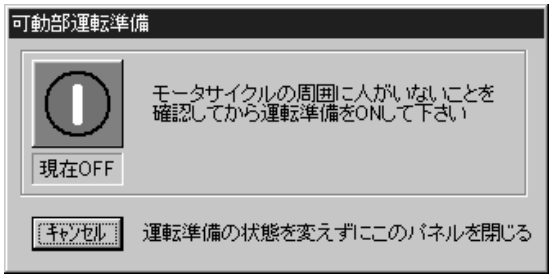
運転準備パネルが表示されたら、可動部電源ボックスにある運転準備キースイッチを右に回してON側にします。



（可動部電源ボックス）

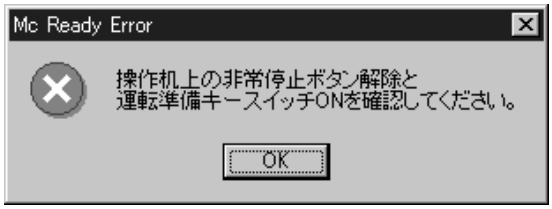
3. 運転準備ボタンを入れる

運転準備パネルの運転準備ボタンを左クリックします。



（運転準備パネル）

運転準備キースイッチを「ON」にしていなかったり、非常停止ボタンが押されたままになっていると、「操作卓上の非常停止ボタン解除と･･･」というメッセージが表示され、運転準備が入りません。運転準備キースイッチと非常停止ボタンを確認して、再度運転準備ボタンを左クリックしてください。



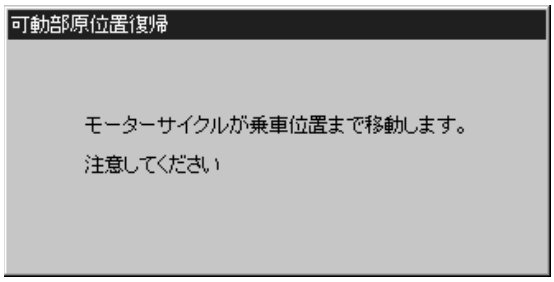
また、運転準備を入れないで次に進みたい場合は、「キャンセル」ボタンを左クリックしてください。

可動部のモーターを作動させるためには、５つの条件があります。

- ●コンピューターが準備完了していること
- ●エラーが発生していないこと
- ●非常停止ボタンが押されていないこと
- ●運転準備キースイッチがON側であること
- ●運転準備ボタンをクリックすること

以上が全て揃わないと、モーターに電源が供給されず、シミュレーターは動きません。

運転準備が入ると、「モーターサイクルが･･･」というメッセージが表示され、モーターサイクルが乗車位置まで移動します。



⚠ 注意

運転準備ボタンを入れるときに周りに人がいないことを確認してください。モーターサイクルにぶつかり、けがの原因となる場合があります。

準備が全て完了したら、「メインメニュー」が表示されます。

（メインメニュー）

主電源スイッチをONにしてからメインメニューが表示されるまでの間に主電源を切らないでください。故障の原因となることがあります。

3. 走行条件設定画面の操作

3-1 画面の構成

システム起動後に、メインメニューが表示されます。（右図）
コースを走行する際には、「コース走行」ボタンを左クリックし、操作する全体画面を表示させます。

（メインメニュー）

全体画面

（全体画面）

コース図パネル

上部の情報ウインドウに走行中のコース、場面名、信号機の状況を表示します。
下部に走行条件設定パネルで設定された内容と、コース図を表示します。

受講者情報パネル

受講者の情報（属性）を入力します。

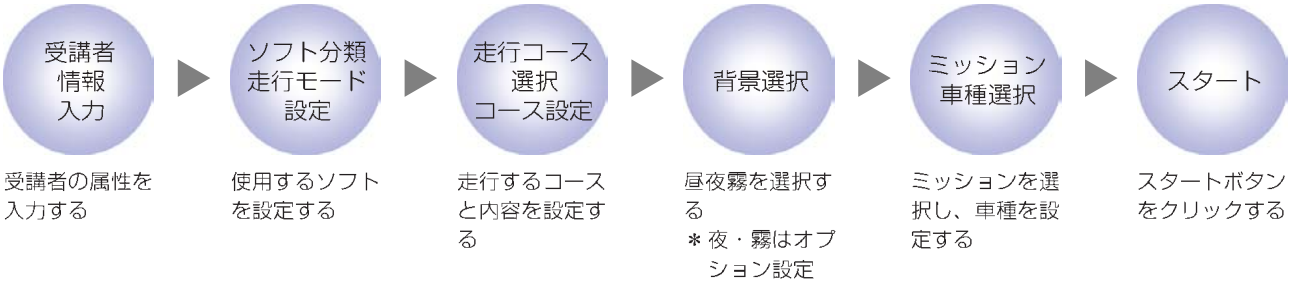
走行条件設定パネル

走行するソフトの種類に応じて、それぞれ走行するための条件を各種設定するパネルです。

3-2 操作手順とソフト教材の構成

操作手順

走行条件設定パネルから、各ボタンを操作して、走行するための条件を設定します。走行ができるまでの操作手順を示します。

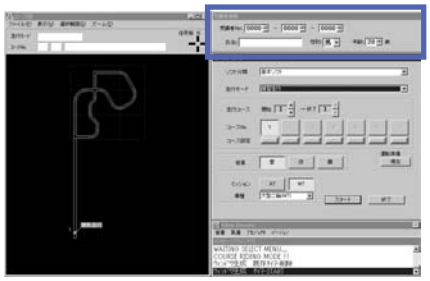


ソフト教材の構成

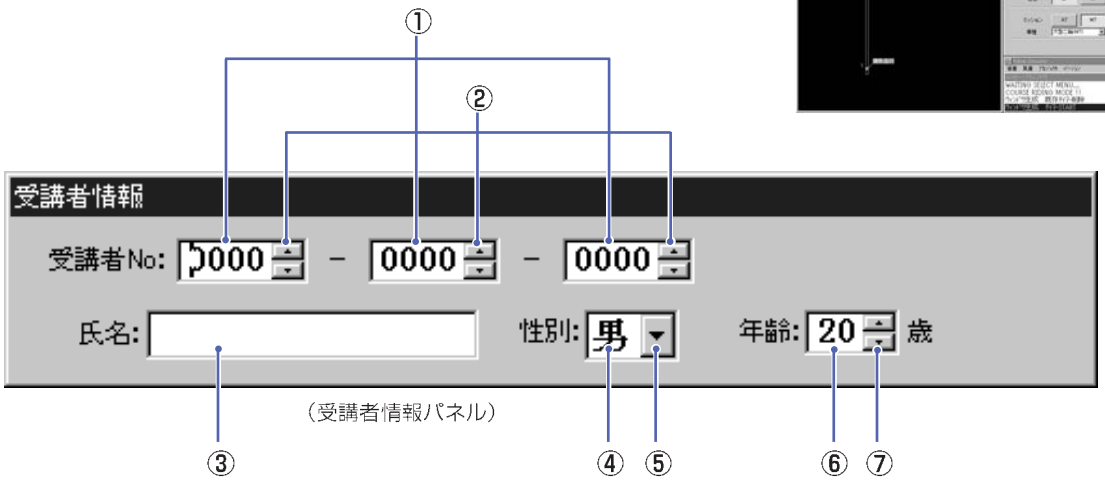
ソフト分類	走行モードの種類	走行コース数
基本ソフト	練習走行	1コース
	二輪特性体験	3コース
	法規走行体験	6コース
	危険予測体験	6コース
	ケーススタディ	6コース
応用ソフト	練習走行	1コース
	応用法規走行体験	3コース
	応用危険予測体験	3コース
	※高速道路体験	1コース

※印はオプションソフトです。

3-3 各設定パネルの名称とはたらき



受講者情報パネル



①受講者No.表示窓
４ケタずつ３カ所あり、受講者番号が表示されます。

②受講者No.設定ボタン
受講者No.表示窓の右側にそれぞれあり、各々の受講者No.を設定します。
上矢印ボタンを左クリックすると数字が大きくなり、下矢印ボタンを左クリックすると数字が小さくなります。
また、受講者No.表示窓内にカーソルを移動し、左クリックしてから数字をキーボードで入力することもできます。

③氏名入力窓
氏名を入力し、表示します。
表示窓内にカーソルを移動し、左クリックしてからキーボードで入力します。

④性別表示窓
受講者の性別が表示されます。

⑤性別メニューボタン
左クリックすると性別メニューが表示され、受講者の性別を選択します。

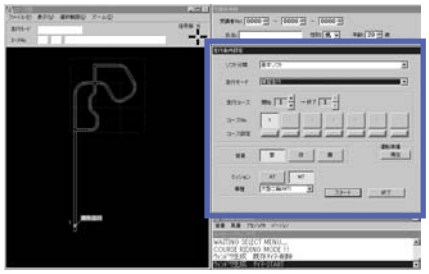
⑥年齢表示窓
受講者の年齢が表示されます。

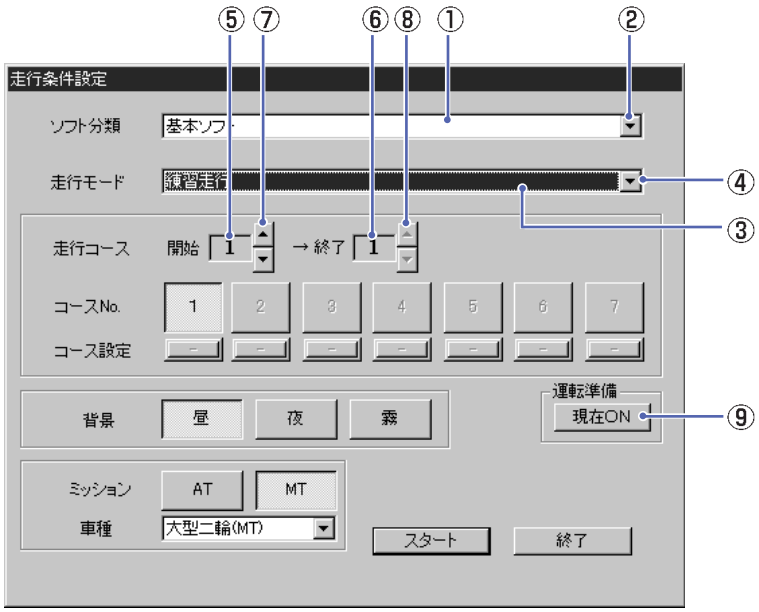
⑦年齢設定ボタン
受講者の年齢を設定します。
上矢印ボタンを左クリックすると数字が大きくなり、下矢印ボタンを左クリックすると数字が小さくなります。

●受講者情報パネルの入力について
マルチアイ再生を行うときは、受講者No.を必ず入力してください。入力しないで同じコースを複数の方が走行した場合、データが上書きされ前の受講者の再生が出来なくなります。

走行条件設定画面の操作

走行条件設定パネル





（走行条件設定パネル）

①ソフト分類表示窓
選択されているソフトの分類名が表示されます。

②ソフト分類メニューボタン
左クリックすると選択可能なソフトの分類メニューが表示され、ソフトを変更できます。

③走行モード表示窓
選択されている走行モード（ソフトの種類）が表示されます。

④走行モードメニューボタン
左クリックすると選択可能な走行モードのメニューが表示され、走行モードを変更できます。

⑤走行開始コース表示窓
コースを連続して走行できる場合、走行を開始するコース番号が表示されます。

⑥走行終了コース表示窓
コースを連続して走行できる走行モードでは、走行を終了するコース番号が表示されます。

＜コースを連続走行できる走行モード＞
基本ソフト：法規走行体験、危険予測体験

⑦走行開始コース設定ボタン
コースを連続して走行できる走行モードでは、走行を開始するコース番号を設定します。
上矢印ボタンを左クリックすると数字が大きくなり、下矢印ボタンを左クリックすると数字が小さくなります。

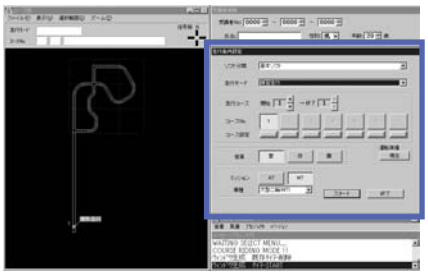
⑧走行終了コース設定ボタン
コースを連続して走行できる場合、走行を終了するコース番号を設定します。
上矢印ボタンを左クリックすると数字が大きくなり、下矢印ボタンを左クリックすると数字が小さくなります。

コース設定例

開始コース	終了コース	走行コース
1	3	1→2→3
2	2	2
4	5	4→5
6	5	6→1→2→3→4→5

⑨運転準備表示ボタン
現在の運転準備状態が表示されます。また、ボタンを左クリックすると、「可動部運転準備」パネルが表示されます。（11頁参照）

走行条件設定画面の操作



（走行条件設定パネル）

⑩コース選択ボタン

走行するコースを選択します。
1コース単独で走行する場合、このボタンを左クリックしてコースを選択します。選択できるコース数は走行モードにより異なります。
ボタンの表示が薄くなっているコースは選択できません。

⑪コース設定ボタン（17頁参照）

コースごとにコースの詳細設定ができます。
設定したいコース番号のコース選択ボタン下の設定ボタンを左クリックすると、コースの詳細設定パネルが表示されます。
ボタンの表示が薄くなっているコースは選択できません。

⑫背景選択ボタン

昼間、夜間、または霧のいずれかを選択します。
夜間と霧の同時選択はできません。
＊夜と霧はオプション設定になっています。オプション購入していない場合は、ボタン選択ができません。

⑬ミッション選択ボタン

ミッションギアを選択します。
AT（オートマチックトランスミッション）またはMT（マニュアルトランスミッション）

⑭車種表示窓

選択されている車種が表示されます。

⑮車種メニューボタン

左クリックすると選択可能な車種メニューが表示され、車種の変更ができます。車種を変更すると、排気音とエンジン出力特性が変わります。

⑯スタートボタン（18頁参照）

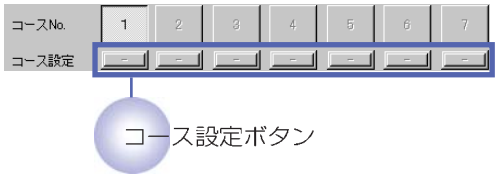
左クリックすると走行画面に切り替わり、走行できるようになります。

⑰終了ボタン（12頁参照）

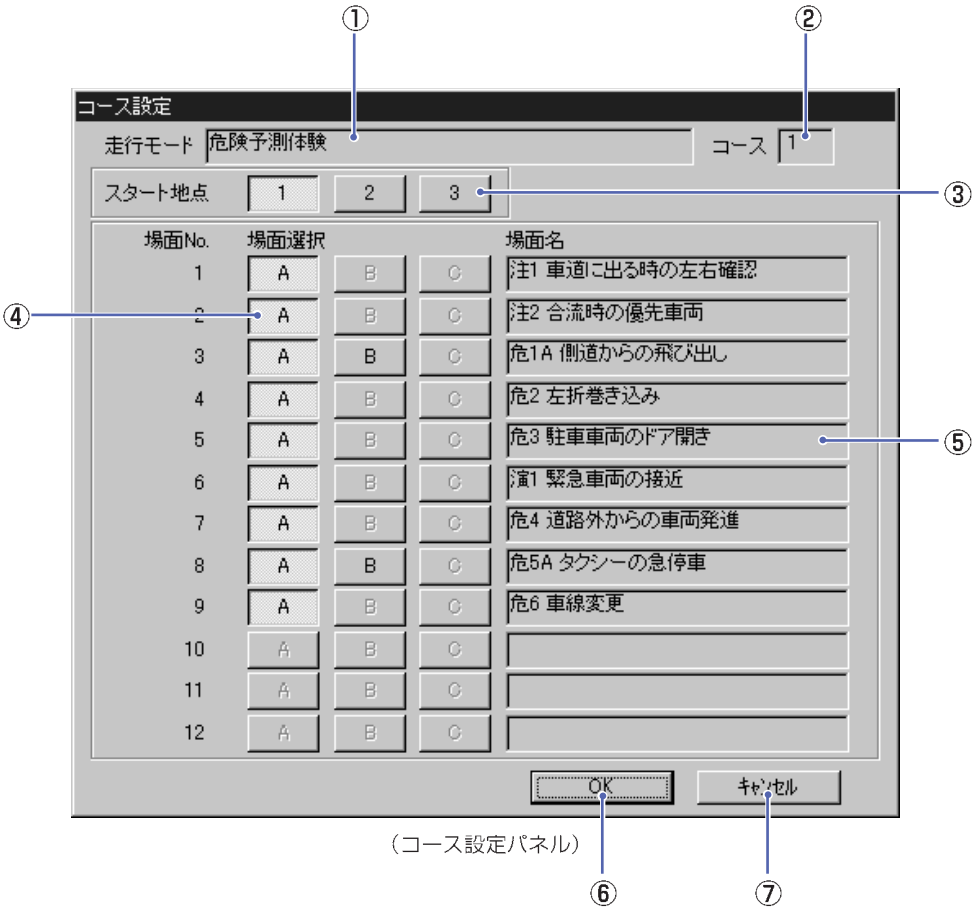
左クリックすると走行条件設定パネルを終了し、メインメニューに戻ります。

走行条件設定画面の操作

コース設定パネル



コース選択ボタン下にあるコース設定ボタンを左クリックするとコース設定パネルが表示されます。



（コース設定パネル）

①走行モード表示窓
選択されている走行モードを表示します。

②コース表示窓
選択されているコース番号を表示します。

③スタート地点選択ボタン
スタート地点を選択します。
表示が薄くなっているボタンは選択できません。

④場面選択ボタン
1場面ごとに場面の種類を選択できます。
表示が薄くなっているボタンは選択できません。

⑤場面名表示窓
選択された場面の名称が表示されます。

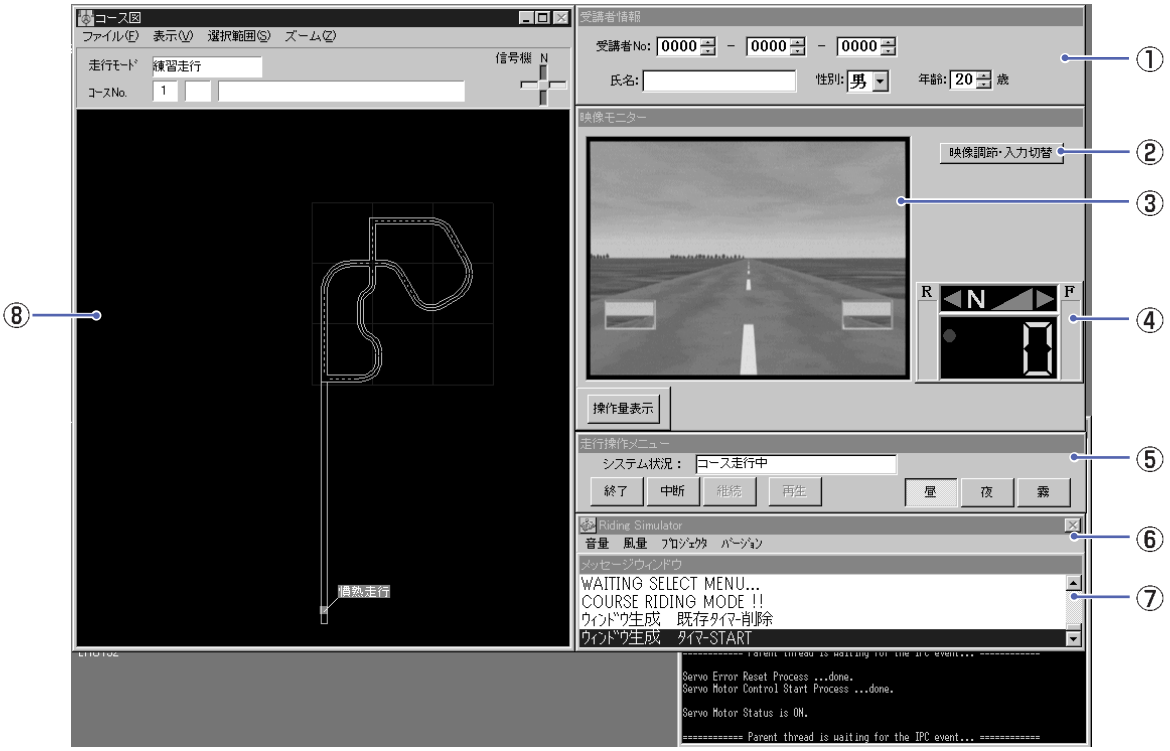
⑥OKボタン
選択された各項目を決定し、走行条件設定パネルに戻ります。

⑦キャンセルボタン
選択された各項目を取り消し、走行条件設定パネルに戻ります。

4. コース走行画面の操作

4-1 画面の構成

走行条件設定パネルのスタートボタンを左クリックすると、走行画面に切り替わります。



（コース走行画面）

①受講者情報パネル

受講者の情報（属性）を入力します。
コース走行終了前であれば変更可能です。

②映像調節・入力切替ボタン

映像モニターの明るさ、コントラスト等を調節します。また、映像モニターの入力を切り替えます。

＊入力切替については、通常使用しません。

③映像モニター

スクリーンに映し出されている走行状況をそのまま表示します。

④運転状況モニター

運転中の自車のスピード、ブレーキおよびウインカー等の使用状況を表示します。

⑤走行操作メニューパネル

走行する際に操作できるボタンを表示します。

⑥システムメニューパネル

音量、風量、プロジェクタの操作、およびソフトバージョン情報の確認を行います。

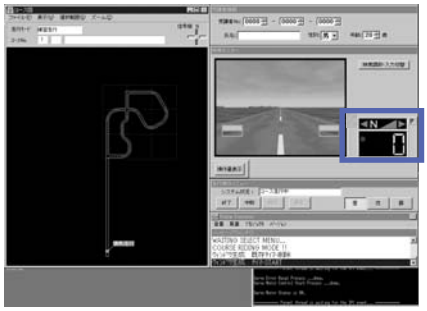
⑦メッセージパネル

さまざまなメッセージを表示します。

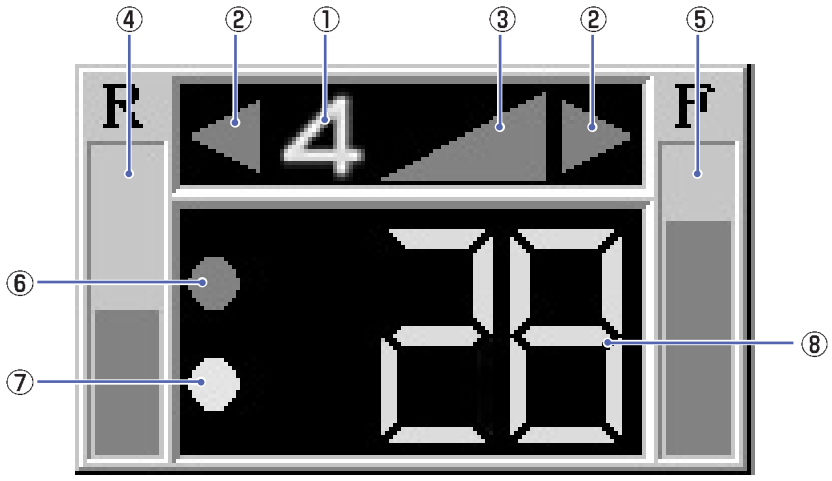
⑧コース図パネル

走行中のコース、場面名、信号機の状況を表示します。
自車や他車の位置を表示します。

4-2 走行パネルの名称とはたらき



運転状況モニター



（運転状況モニター）

①ギアポジションモニター
ギアの位置を表示します。
ミッション選択ATの場合、N（ニュートラル）に固定されます。
ミッション選択MTの場合、N、1、2、3、4、5、6を表示します。

②方向指示器モニター
左右の方向指示器灯を表示します。
モーターサイクル部の方向指示インジケーターランプと同期して点滅します。

③クラッチモニター
クラッチのつながり具合をモニターします。赤い三角形の面積が変化し、面積が大きいほどクラッチがつながっていることを意味します。（ATの場合、変化しません）

④後輪ブレーキモニター
後輪ブレーキのかけ具合を表示します。赤いバーグラフで表示し、赤いバーグラフが上に伸びるほどブレーキが強くかけられていることを意味します。

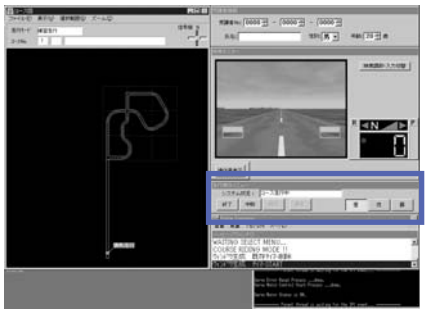
⑤前輪ブレーキモニター
前輪ブレーキのかけ具合を表示します。赤いバーグラフで表示し、赤いバーが上に伸びるほどブレーキが強くかけられていることを意味します。

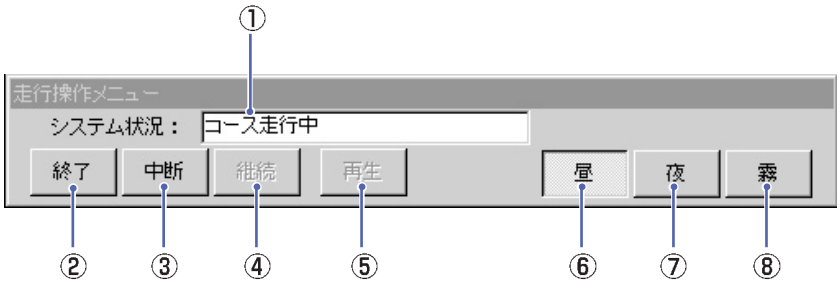
⑥オイル警告灯モニター
オイル警告灯を表示します。モーターサイクルのオイル警告灯と同期して点灯します。メインスイッチがONの状態で、エンジンが停止している時に点灯します。

⑦ハイビームランプモニター
ライトのハイビーム時を表示します。
モーターサイクルのハイビームインジケータランプと同期して点灯します。メインスイッチがONの状態で、ハイビームスイッチがONのときに点灯します。

⑧速度モニター
速度を表示します。[Km/h]

走行操作メニューパネル





（走行操作メニューパネル）

①システム状況表示窓
現在のシステムの状況を表示します。

②終了ボタン
走行を終了します。左クリックするとモーターサイクルは停止し、走行画面から走行条件設定パネルに戻ります。

③中断ボタン
走行を一時中断します。コースミスした場合や走行を一時中断したい場合に左クリックします。

> 中断ボタンは、完全に停止させてから左クリックしてください。

④継続ボタン
中断している走行を継続します。「中断」ボタンを左クリックしたり、事故などで中断している状態で左クリックすると継続します。

⑤再生（マルチアイ）ボタン
走行した状況を再生します。中断モード（中断ボタンを押すか、事故になるかのいずれかの状態）に入る 3 秒前の状況から再生が始まります。

⑥昼ボタン
昼の走行状況にします。左クリックするとボタンが凹状態になります。

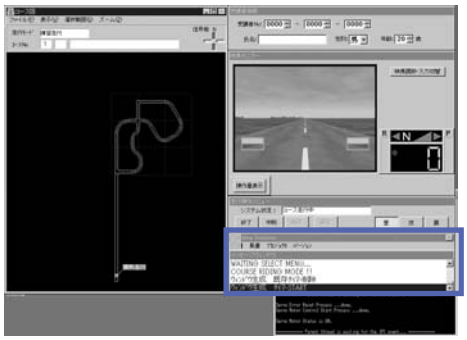
⑦夜ボタン（オプション）
夜の走行状況にします。左クリックするとボタンが凹状態になります。

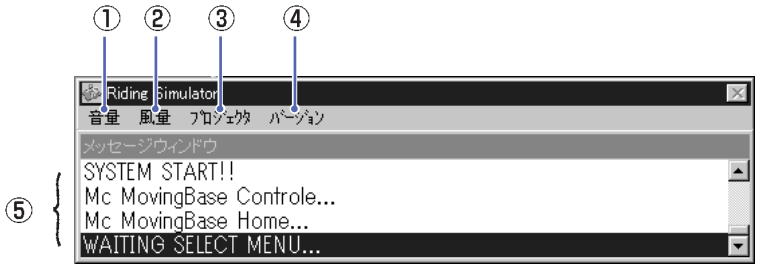
⑧霧ボタン（オプション）
霧の走行状況にします。左クリックするとボタンが凹状態になります。
（夜から霧を選ぶと、昼間の霧の状態になります）

＊⑥⑦⑧は、走行中でも切り替えられます。

コース走行画面の操作

システムメニューパネル/メッセージパネル





（システムメニューパネル）

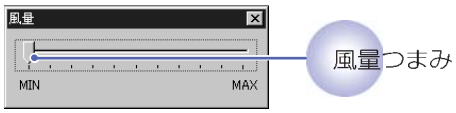
①音量調節

システムメニューパネルの「音量」を左クリックすると、音量パネルが表示されます。

音量を調節します。
音量つまみにカーソルを合わせ、ドラッグします。
右側に移動するほど音量が大きくなります。
消音の□にカーソルを合わせて左クリックすると、音を消すことができます。

②風量調節

システムメニューパネルの「風量」を左クリックすると、風量パネルが表示されます。



風量を調節します。
風量つまみにカーソルを合わせ、ドラッグします。
右側に移動するほど風量が大きくなります。

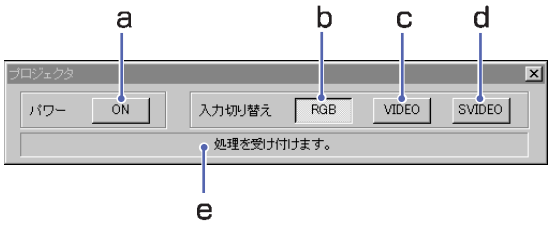
③バージョン情報

システムメニューパネルの「バージョン」を左クリックすると、バージョン情報パネルが表示されます。

入力されているソフトのバージョンを表示します。
「OK」ボタンを左クリックすると、パネルは消去されます。

④プロジェクタ設定（一般用には使いません）

システムメニューパネルの「プロジェクタ」を左クリックすると、プロジェクタパネルが表示されます。



プロジェクタの電源と入力切替をします。

a.電源 ON/OFF ボタン
プロジェクタの電源を入れることができます。

b.RGB ボタン
プロジェクタの入力ポートを RGB 側に切り替えます。

c.VIDEO ボタン
プロジェクタの入力ポートをビデオ側に切り替えます。

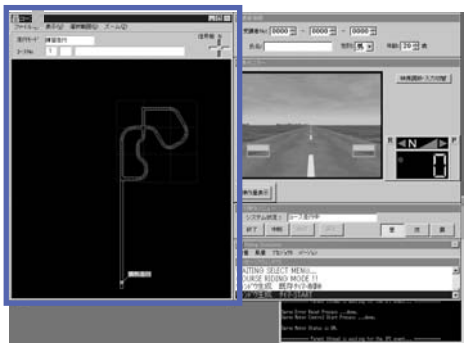
d.SVIDEO ボタン
プロジェクタの入力ポートを S ビデオ側に切り替えます。

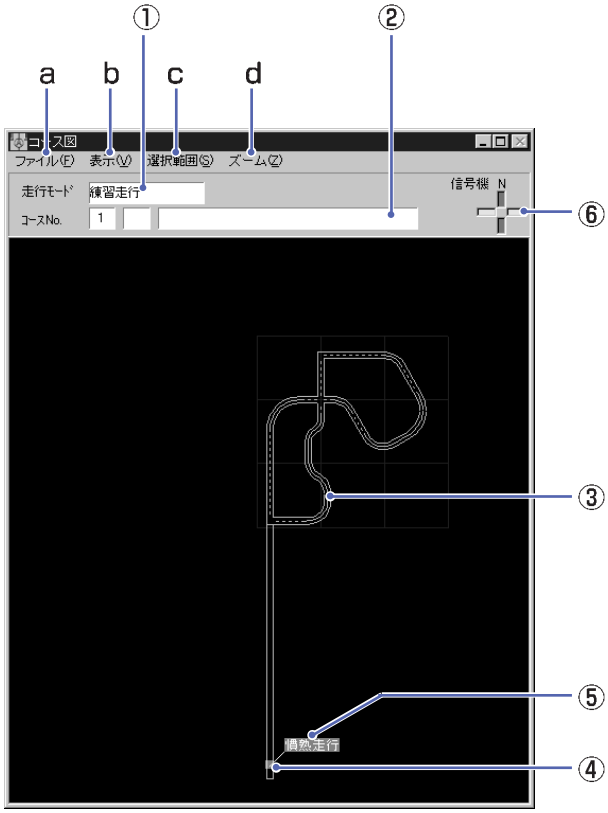
e.プロジェクタ状況表示窓
プロジェクタの現在の状況を表示します。

⑤メッセージ表示窓

過去に行った処理のさまざまなメッセージを表示します。エラー情報も確認することができます。

コース図パネル



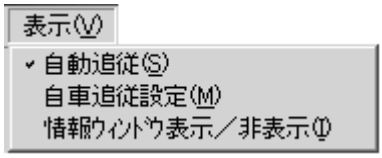


（コース図パネル）

a.ファイル（現在機能しません）

b.表示

コース図パネルの「表示」を左クリックするとメニューパネルが表示されます。



c.選択範囲

コース図パネルの「選択範囲」を左クリックすると、メニューが表示されます。コース図上を右クリックしても同様に表示されます。
詳しくは24頁を参照してください。

d.ズーム

コース図パネルの「ズーム」を左クリックすると、メニューが表示されます。
詳しくは23頁を参照してください。

①走行モード表示窓

設定した走行モード名を表示します。

②走行コース情報表示窓

走行中のコース番号、場面番号および場面名を表示します。

③コース図表示

自車が走行するコースの位置を表示します。コースは一部を拡大して表示することができます。（23頁参照）

④自車位置表示

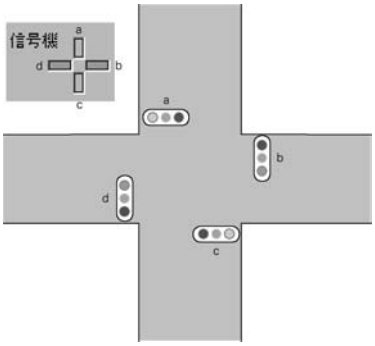
自車を赤い点（他より少し大きめな点）で表示します。走行することで走行コース上を移動します。また、他の車両がある場合には、登場車両をボディカラーと同じ色の点で表示します。

⑤場面名表示

走行コース上における学習場面の位置と場面名を表示します。

⑥信号機点灯状態表示

自車が通過する交差点の信号機の点灯状態を表示します。信号機の位置は、常に上を北（N）にしてあり、コース図に対して同じ方向で表示しています。

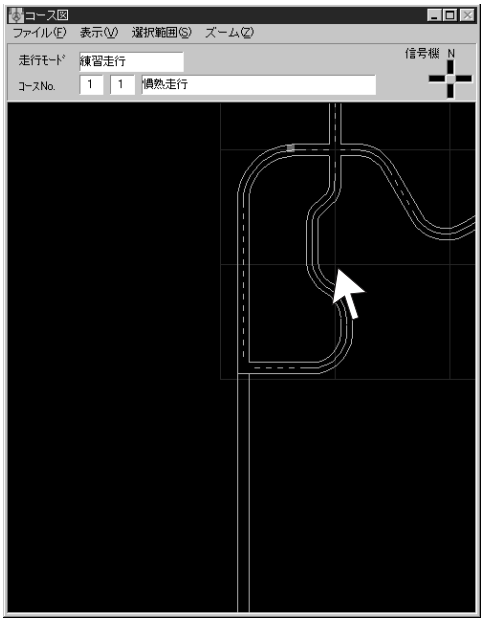


コース走行画面の操作

コース図パネル上の各種操作

コース図の移動方法

コース図の中で、任意の場所を中央にして見やすくすることができます。

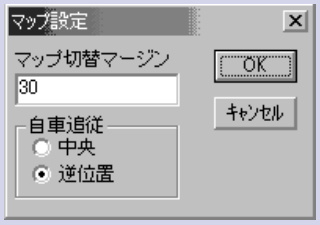


1 コース図の任意の場所にカーソルを移動します。

2 左ボタンをダブルクリックします。カーソルを置いたところが画面の中央に移動します。ただし、自車追従モードのとき、自車位置が画面の外れになるような移動はできません。

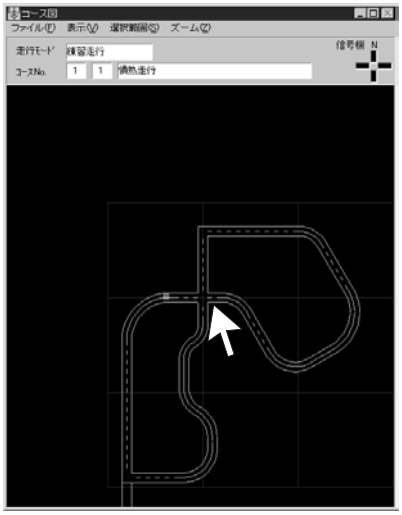
自動追従
走行中の自車の位置をコース図中に自動的に追従表示させるようにします。チェックがないと、自車位置表示が画面から外れます。

自動追従設定



マップの切替マージンを変更したり、自動追従時の切替位置を中央にするか逆位置にするかを設定します。

情報ウインドウ表示/非表示
情報ウインドウの標示、非表示を設定します。
＊メニューの標示は、22頁b.を参照



コース図の拡大方法

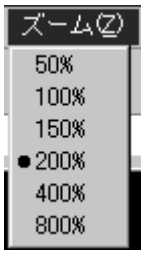
走行位置表示におけるコース図は、任意の場所や範囲を拡大して表示することができます。

＜マウスメニューによる拡大・縮小＞

1 上記コース図の移動方法により倍率変更したい場所をコース図の中心に移動する。

2 コース図パネルの「ズーム」を左クリックしてメニューを表示させます。

3 希望する倍率にカーソルを合わせて、左クリックします。



＜コース図の範囲選択による拡大＞

1 コース内の拡大したい位置が中央にくるようにドラッグし、拡大する範囲を選択します。選択した範囲は、四角の点線で表示されます。（図ａ）

2 コース図パネルの「選択範囲」を左クリックしてメニューを表示させます。（右クリックしてもメニューを表示できます）（図ｂ）

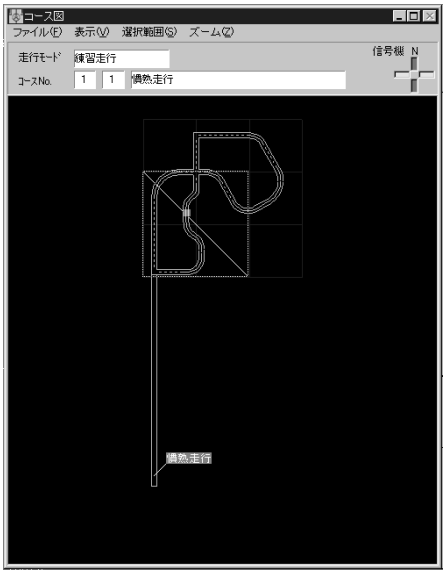
3 表示されたメニューの中の「選択範囲拡大」にカーソルを合わせ、左クリックします。（図ｃ）

4 選択したエリアが拡大されて表示されます。（図ｄ）

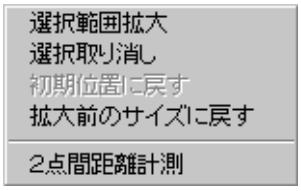
5 再度拡大したい場合は、１～３の操作を繰り返します。
拡大限界まで拡大して、これ以上の拡大ができない場合は、『これ以上拡大できません』というメッセージが表示されます。
この場合は「OK」ボタンを左クリックして下さい。（図ｅ）

（図ｅ）

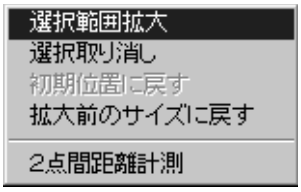
拡大操作を中止したい場合は、「選択取り消し」にカーソルを合わせ、左クリックします。（図ｆ）
コース図上を左クリックしても、選択範囲を取り消すことができます。



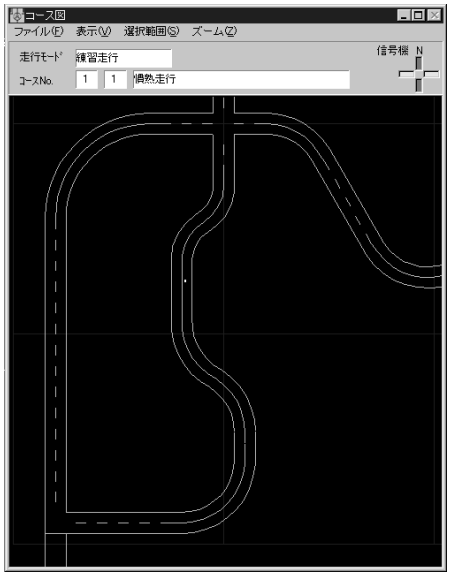
（図ａ）



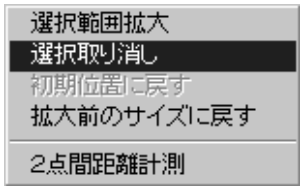
（図ｂ）



（図ｃ）



（図ｄ）



（図ｆ）

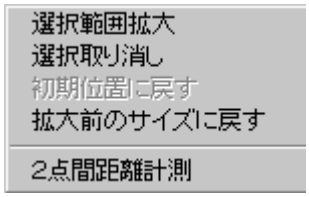
コース走行画面の操作

サイズ・位置を戻す方法

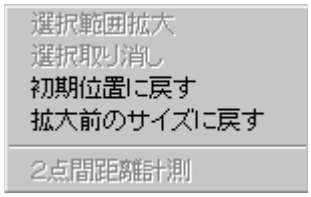
1 コース図パネルの「選択範囲」を左クリックしてメニューを表示させます。（コース図上を右クリックしてもメニューを表示できます）（図 g）

2 メニュー内の「初期値に戻す」または「拡大前のサイズに戻す」にカーソルを合わせ、左クリックします。（図 h）

3 「初期値に戻す」を選択した場合は、最初の基準サイズのコース図が表示されます。
「拡大前のサイズに戻す」を選択した場合は、１つ前のサイズのコース図が表示されます。



（図 g）



（図 h）

２点間距離の測定

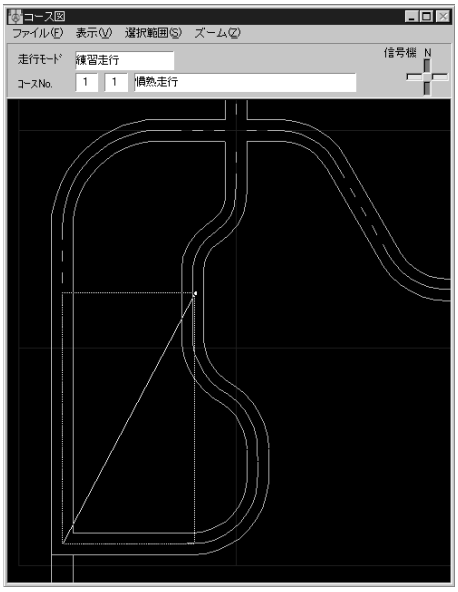
コース図上で２点間の距離が測定できます。

1 コース図内の測定したい２点間をドラッグし、測定する２点を選択します。（図 i）
点線で表示される四角の対角線が測定対象となります。

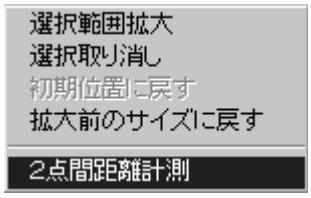
2 コース図パネルの「選択範囲」を左クリックしてメニューを表示させます。（コース図で右クリックしてもメニューを表示できます）（図 j）

3 「２点間距離測定」にカーソルを合わせ、左クリックします。（図 j）

4 ２点間の距離が表示されます。（図 k）
「OK」ボタンを左クリックすると距離表示は消えます。



（図 i）



（図 j）

（図 k）

5. マルチアイシステム（走行再生機能）

各モードで走行した状況が自動的にコンピューターのメモリーに記憶されます。
記憶されたデータを再生することで、走行結果の映像を忠実に再現でき、走行中の視点も自由に変更することができます。マルチアイには、５つの視点モードがあります。

5-1 視点モードの種類

主観映像

自車視点モード

運転者の視点で正面映像が再現されます。運転中、何を見ていたかを本人に確認する場合に効果的です。

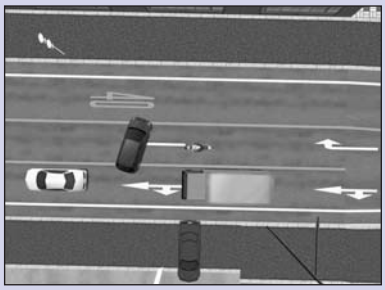
客観映像

他車視点モード

相手車両や歩行者等の視点から自車を眺めた映像及び他車等からの正面映像が見られます。自車が相手側からどのように見られていたかを確認できます。

スカイモード

自車を真上から見下ろした鳥瞰映像が見られます。自車の走行位置と周囲の交通状況を客観的に見ることができます。



バードモード

自車の周りの任意方向、距離から眺めた映像が見られます。視点は、自車と相対位置を維持したまま自動追従します。

ホバリングモード

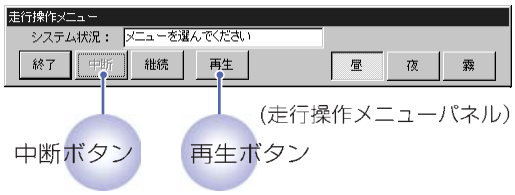
バードモードの視点位置を固定したモードです。自車には追従せずに固定カメラのような映像になります。

5-2 操作手順

走行状況の再現は、走行途中でも走行を終了した後でも行うことができます。

走行途中の操作

現在の走行を再生します。



走行画面「中断」 ▶ 走行画面「再生」

事故で中断モードに入っているか、走行操作メニューパネルの「中断」ボタンを左クリックする。

走行操作メニューパネルの「再生ボタン」を左クリックする。

走行後の操作

過去の走行を選んで再生します。

走行画面「終了」 ▶ 走行条件設定パネル「終了」 ▶ メインメニュー「マルチアイ」 ▶ ファイル選択「開始」

走行操作メニューパネルの「終了」ボタンを左クリックする。(20 頁参照)

走行条件設定パネルの「終了」ボタンを左クリックする。(16頁参照)

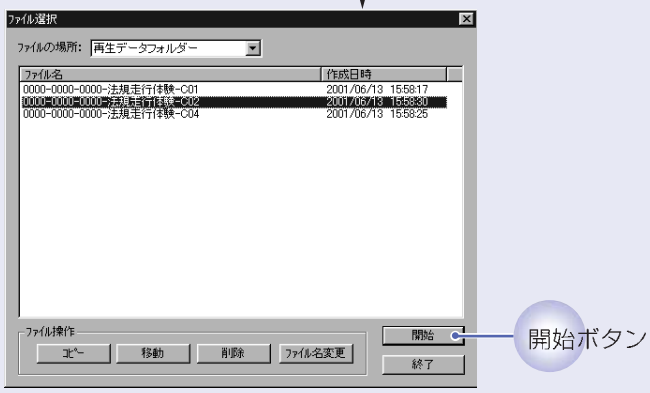
メインメニューの「マルチアイ」ボタンを左クリックする。

再生するファイルを選択して「開始」ボタンを左クリックする。

1. メインメニュー（図 a）から「マルチアイ」ボタンを左クリックします。
2. ファイル選択パネル（図 b）が表示され、再生するファイルを選択します。
3. 「開始」ボタンを左クリックします。
4. 再生画面（図 c）が表示され、自車視点で再生がスタートします。（再生したいファイルを直接ダブルクリックすることでも再生がスタートします）

(図 a)

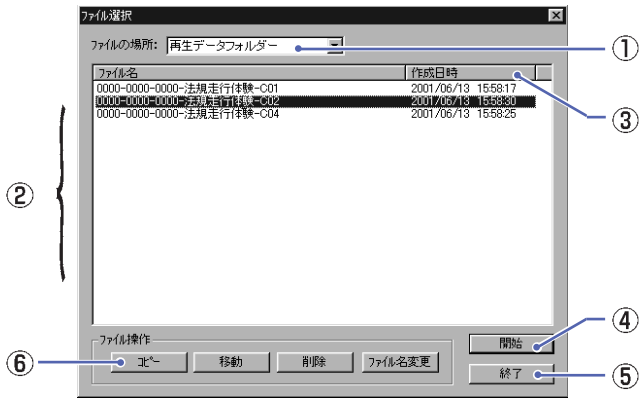
(図 c)



(図 b)

5-3 ファイル選択パネルの名称とはたらき

ファイル選択パネル



（ファイル選択パネル）

①フォルダー選択ボタン

用途別に分類された次のフォルダーの中から矢印ボタンを左クリックして再生したいファイルが保存されているフォルダーを選択します。

【再生データフォルダー】

主電源を入れてから走行したデータが保存されます。再生データフォルダーのデータは、シミュレーターの終了時にバックアップフォルダーに移動して保存されます。

【バックアップフォルダー】

過去の走行データが保存されています。

シミュレーターの終了時に再生データフォルダーから移動したデータが保存されます。

【デモフォルダー】

教習でデモなどに使用したいデータを保存します。保存はファイル選択パネルの移動ボタンで行います。

（29頁⑦を参照してください）

②ファイル選択ウインドウ

再生、またはファイル操作ができるファイルを表示します。

選択するファイルを左クリックすることで選択されます。

③ソートボタン

ボタンに表示されている列のファイルを昇順、降順交互に並べ替えて表示できます。また、ボタンとボタンとの境界をドラッグすることで列の表示幅を変更できます。

④開始ボタン

選択したファイルの再生を開始します。ファイル選択ウインドウで再生したいファイルを左ボタンでダブルクリックしても再生を開始します。

⑤終了ボタン

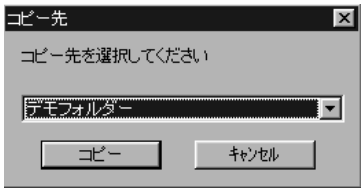
ファイルの選択を終了して、メインメニューに戻ります。

「ファイル操作ボタン」

⑥コピーボタン

選択したファイルを指定したフォルダーにコピーすることができます。

ファイル選択ウインドウからファイルを選択し、コピーボタンを左クリックするとコピー先選択パネルが開きます。矢印ボタンでコピーフォルダーを選択します。「コピー」ボタンを左クリックすると実行され、中止するときは「キャンセル」ボタンを左クリックします。

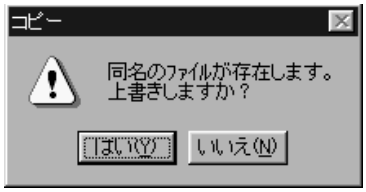


コピー先に同名のファイルが既に存在する場合は、確認パネルが表示されます。

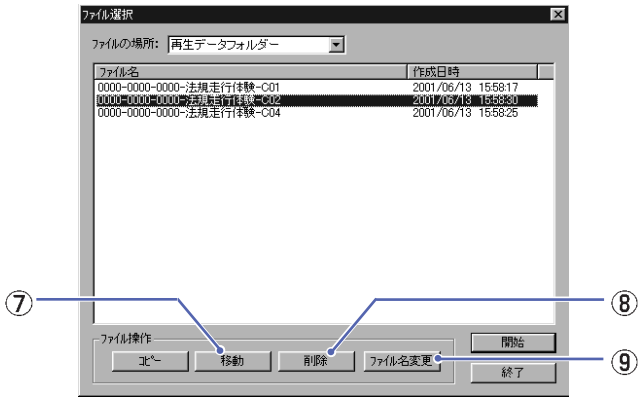
上書きする場合は「はい」を、しない場合は「いいえ」を左クリックします。

上書きしないで別に保存したい場合は、ファイル名を変更して再度行ってください。

（ファイル変更：29頁⑨参照）



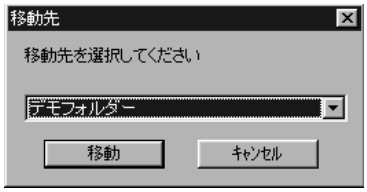
●バックアップフォルダーとデモフォルダーに保存できるデータ数は 20 件で古いデータから削除されます。



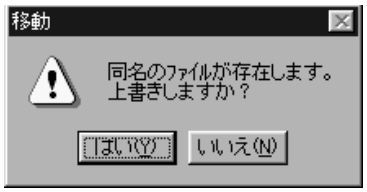
（ファイル選択パネル）

⑦移動ボタン

選択したファイルを指定したフォルダーに移動することができます。
ファイル選択ウインドウからファイルを選択し、「移動」ボタンを左クリックすると移動先選択パネルが開きます。



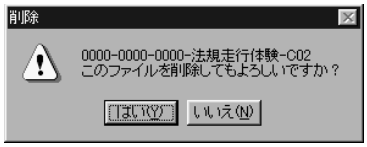
矢印ボタンで移動先フォルダーを選択します。
「移動」ボタンを左クリックすると実行、「キャンセル」ボタンを左クリックすると中止されます。
コピー先に同名のファイルが既に存在する場合は、確認パネルが表示されます。
上書きする場合は「はい」を、しない場合は「いいえ」を左クリックします。



上書きしないで移動したい場合は、ファイル名を変更して再度行ってください。
（ファイル名変更：右⑨**参照**）

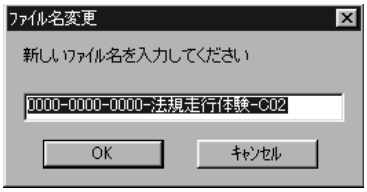
⑧削除ボタン

選択したファイルを削除することができます。
ファイル選択ウインドウからファイルを選択し、「削除」ボタンを左クリックすると確認パネルが開きます。
削除するファイル名を確認後「はい」ボタンを左クリックすると実行されます。
削除を中止する場合は、「いいえ」ボタンを左クリックします。

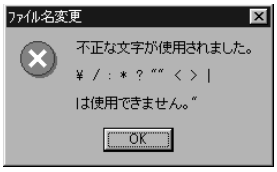


⑨ファイル名変更ボタン

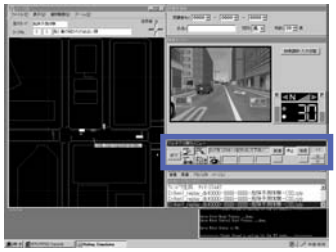
選択したファイル名を変更することができます。
ファイル選択ウインドウからファイルを選択し、「ファイル名変更」ボタンを左クリックするとファイル名変更パネルが開きます。



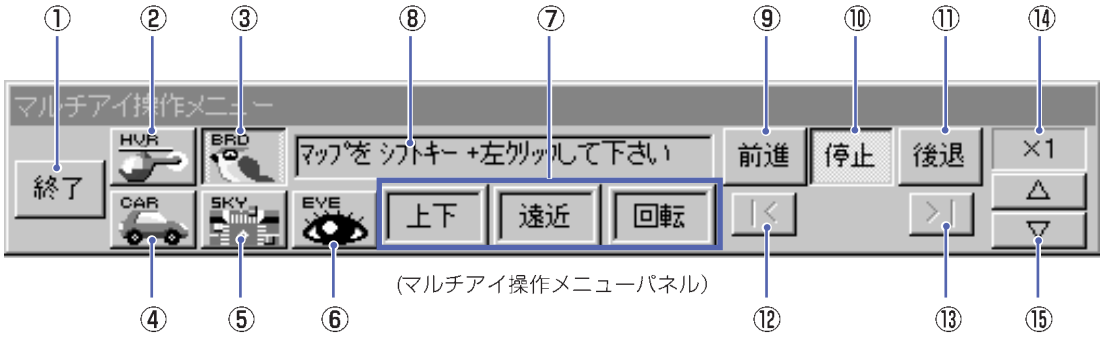
新しいファイル名をボックスに入力後「ＯＫ」ボタンを左クリックするとファイル名が変更されます。変更を中止したい場合は「キャンセル」ボタンを左クリックします。
変更後のファイル名が既に同じフォルダー内に存在する場合やファイル名として使用できない記号を使用した場合は、エラーパネルが表示されますので「OK」ボタンを左クリックしてパネルを閉じ、違うファイル名や正しいファイル名を再度入力します。



5-4 再生操作の名称とはたらき



マルチアイ操作メニューパネル



(マルチアイ操作メニューパネル)

①終了ボタン
再生を終了し、再生ファイル選択パネルまたは走行画面に戻ります。

②ホバリングボタン
再生画面をホバリングモードにします。任意の位置に固定された視点から自車を眺めた映像が再生されます。

③バードボタン
再生画面をバードモードにします。
任意の位置にある視点から自車との相対位置を維持したまま自動追従します。

④他車視点ボタン
再生画面を他車視点モードにします。相手車両等の視点から眺めた映像が表示されます。

⑤スカイボタン
再生画面をスカイモードにします。自車を中心に真上から見た映像が表示されます。

⑥自車視点ボタン
再生画面を自車視点モードにします。運転者の視点における正面映像を表示します。

⑦視点移動ボタン
②～⑥までのモードごとにそれぞれ視点を移動することができます。（31頁参照）

⑧再生情報表示窓
再生操作中の情報を表示します。

⑨前進ボタン
再生画面を順方向に再生します。

⑩停止ボタン
再生画面を一時停止します。

⑪後退ボタン
再生画面を逆方向に再生します。

⑫前進スキップボタン
順方向の次の場面、または事故場面の直前に再生開始位置を飛ばします。

⑬後退スキップボタン
逆方向の前の場面、または事故場面の直前に再生開始位置を飛ばします。

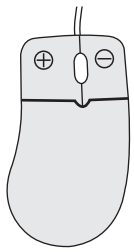
⑭再生速度表示窓
再生速度の倍率を表示します。

⑮再生速度変更ボタン
再生速度を変えることができます。再生画面にしたときは、X1になっています。上矢印ボタンを左クリックすると、再生速度の倍率が上がり早く再生されます。（X1→X2→X4）下矢印ボタンを左クリックすると、再生速度の倍率が下がり遅く再生されます。(X1→1/2→1/4)

5-5 視点移動操作

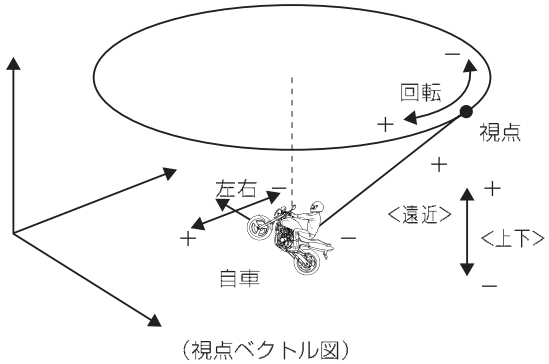
各視点モードに対する視点移動ボタンの種類が異なります。各視点モードのボタンをそれぞれ左クリックすると、モードに応じて下記の視点移動ボタンが表示されます。

視点モード名	視点移動ボタン			ボタンの意味
自車視点モード	左右	中央		＜左右＞自車の視点の位置を左右に平行移動します。 ［中央］　視点の位置を基準位置に戻します。
他車視点モード	前方	回転	自車	［前方］　選択した他車の運転者等の視点位置から進行方向前方を表示します。 ＜回転＞ 選択した他車の運転者等の視点を中心に視点の位置を回転させて調整します。 ［自車］　選択した他車の運転者等の視点から自車の方向を眺めた映像を表示します。
スカイモード	上下			＜上下＞自車を真上から眺めたときの高さ方向を調整します。
バードモード	上下	遠近	回転	＜遠近＞視点と自車との距離を調整します。 ＜回転＞自車を中心に視点の位置を回転させて調整します。 ＜上下＞自車を眺める高さを調整します。
ホバリングモード	上下			＜上下＞自車を眺める高さを調整します。



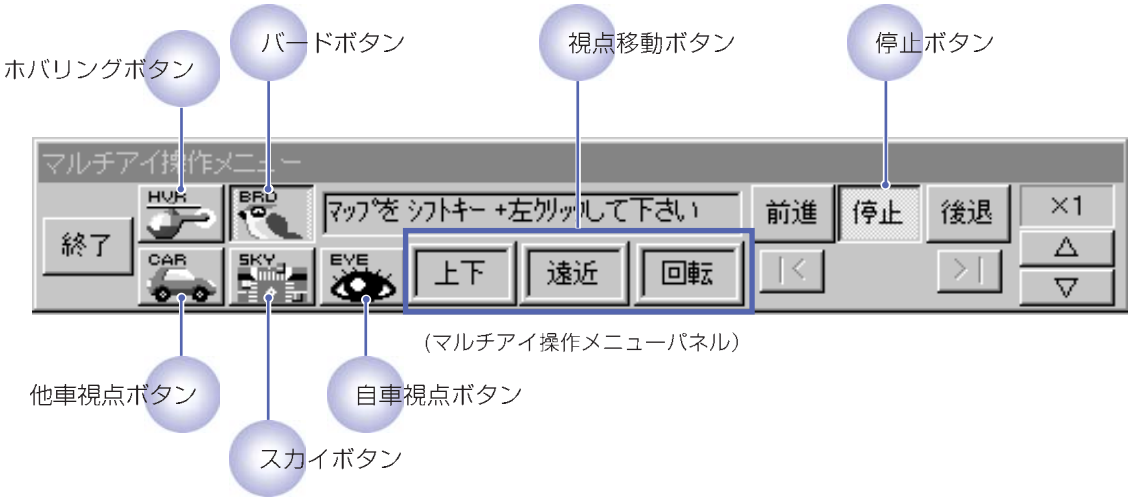
ボタン名	左クリック⊕	右クリック⊖
遠近	遠方向	近方向
回転	左方向	右方向
上下	上（高）方向	下（低）方向

上記のカッコの意味
＜　＞ マウスの左または右ボタンを押し続けている間、視点が移動します。
［　］ 左または右ボタンを１回クリックすることで、操作を完了します。



（視点ベクトル図）

5-6 視点切り替え方法



自車視点モードとスカイモードでは、それぞれ自車視点ボタンとスカイボタンのアイコンボタンを左クリックするだけで視点が切り替わります。その他のモードの切り替えについては、以下の操作が必要です。

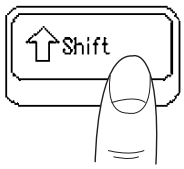
1 「バード」ボタンを左クリックする。
この場合、画面を停止させておくと、その後の操作がしやすくなります。

2 必要に応じて、コース図の移動及び拡大をする。（詳しくは23、24頁参照）

3 キーボードの「Shift（シフト）」キーを押したまま、コース図上の任意の車両付近にカーソルを置いて左クリックします。このとき、自車の周囲を拡大しておくと利用しやすくなります。（23、24頁参照）

4 スクリーンとカラーモニターの映像モニターパネルに自車と相対位置を保ったところからの視点映像が映し出されます。

5 視点移動ボタンで見る位置を調整します。



シフトキーを押す

左クリックする

＊ホバリングモードも同様な操作をします。
バードモードからホバリングモードに切り替える場合は、コース図上で位置を指定しなくても「ホバリング」ボタンを左クリックするだけで切り替わります。
また、ホバリングモードからバードモードに切り替えるときも「バード」ボタンを左クリックするだけで切り替わります。

＊他車視点モードでは、シフトキーを押しながら相手車両、または歩行者等を左クリックする。

6. システム終了

6-1 終了のしかた

1. メインメニューにする

● 走行条件設定パネルから終了にするには、「終了」ボタンを左クリックする。

（走行条件設定パネル）

終了ボタン

● ファイル選択パネルから終了するには、「終了」ボタンを左クリックする。

（ファイル選択パネル）

終了ボタン

2. システムを終了する

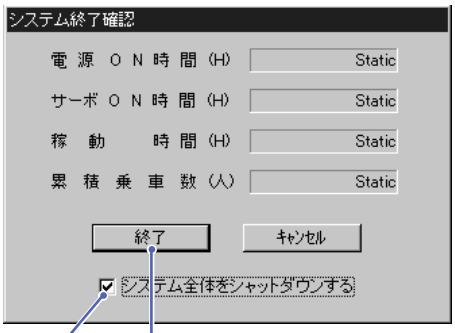
上記のいずれかの操作を行うと、メインメニューを表示します。
「システム終了」ボタンを左クリックします。

システム終了ボタン

（メインメニュー）

3. システムの終了を確認する

システムを終了するかを確認してきます。
「終了」ボタンを左クリックします。
「システム全体をシャットダウンする」にチェックが入っていることを確認し、入っていないときは、ボックスを左クリックしてチェックを入れます。



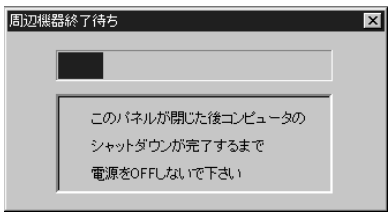
（システム終了確認パネル）

チェックボックス

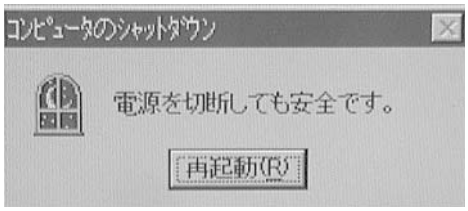
終了ボタン

「キャンセル」ボタンを左クリックすると、メインメニューパネルに戻ります。

「終了」ボタンが押されると、システム終了中の画面が表示され、システム終了処理が実行されます。



処理が終了すると、電源OFFの許可メッセージが表示されます。

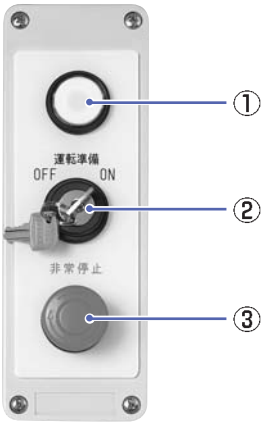


4. 主電源を切る

スクリーン部正面右側にある主電源スイッチの扉を開き、主電源スイッチを下側（OFF）にします。

7. 復帰操作と保護動作

7-1 非常停止と運転準備



(オペレーションデスクの電源操作ボックス部)
＊非常停止後の復帰はボタンを右に回す。

① **電源ランプ**
主電源スイッチをONにすると点灯します。

② **運転準備キースイッチ**
モーターサイクルユニットに電源を入れる準備をするスイッチです。キーは、ON側では抜けませんので、抜くときはOFF側にしてください。

③ **非常停止ボタン**
押すと、運転準備が落ちモーターサイクルユニットが即時停止し、ボタンはロックされます。

非常停止

非常停止ボタンは、モーターサイクルユニットが異常な動きをしたり、乗車中の人が操作不能になった場合などの緊急時に使用します。非常停止ボタンが押されると、運転準備が落ち、モーターサイクルユニットの動作が即時に停止します。
走行中に押された場合はエラーとなり画面にエラーコードが表示されます。

復帰方法

1. 非常停止ボタンは押されるとロック状態になっていますので、ボタンを矢印方向に回してロックを解除します。
2. エラーが発生している場合は、エラーを解除します。
3. 運転準備パネルの運転準備ボタンを左クリックします。

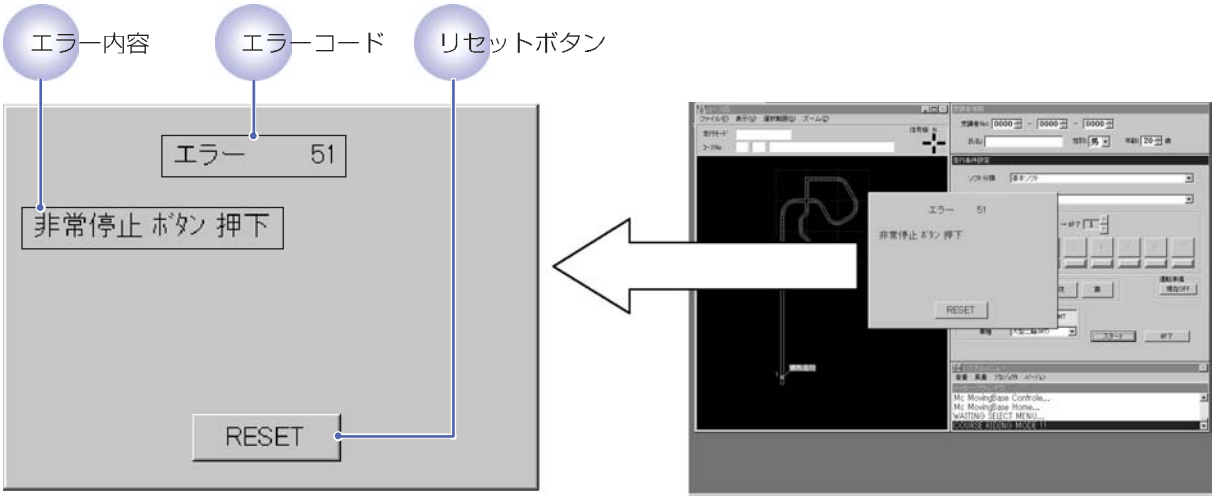
運転準備キースイッチ

運転準備キースイッチは、起動、終了以外にも指導員や管理者が電源を入れたまま本機から離れる場合、一時的に運転操作ができないようにするときに使用します。運転準備キースイッチをOFFにすると、運転準備が落ち、モーターサイクルユニットは動作できません。
電源を入れたまま本機から離れる場合は、スイッチをOFFにし、キーを抜いてください。

復帰方法

1. 運転準備キーを差し込み、ONにします。
2. エラーが発生している場合は、エラーを解除します。
3. 運転準備パネルの運転準備ボタンを左クリックします。

7-2 エラーの検出と解除



（エラーコードパネル）　　（エラーコード表示）

エラー検出

ライディングシミュレーターは、正常な動作を確認するため、主要な機器を常時監視しています。
シミュレーター内部で何らかの異常を検出した場合は、その内容に応じて対処した後、エラーコードパネルを表示します。
エラーコードパネルには、エラーコード、エラー内容、リセットボタンが表示されています。

お願い
エラーが発生し、リセットができ、その後正常に動いた場合でも、今後のメンテナンスの参考にさせていただきますので、発生時の操作内容と発生エラーコードを当社までお知らせください。

エラー解除

エラーを解除しないとシミュレーターの操作ができません。エラー解除方法にしたがってください。
エラーを解除しても再度エラーが発生する場合は、異常の原因がまだほかにもあると思われます。一度システムを終了し、再度システムを起動してください。
システム再起動をしてもエラーが発生する場合は、当社までご連絡ください。

エラー解除方法

1. エラーコードパネル内の「リセット」ボタンを左クリックします。
2. リセットするとエラーコードパネルは消えます。
3. 運転準備が落ちている場合は、運転準備パネルの運転準備ボタンを左クリックします。

7-3 エラーコード一覧表

エラーコード	内　　容	処　　置
11	SV 基盤初期化異常	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
12	個別調整用 EEPROM ステータスエラー	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
13	個別調整用 EEPROM 書込エラー	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
14	個別調整用 EEPROM チェックサムエラー	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
15	個別調整用 EEPROM タイムアウトエラー	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
16	サーモ IC 設定値エラー	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
21	不正なタイミングの EEPROM アクセス	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
31	IO基盤受信タイムアウト	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
32	IO基盤送信タイムアウト	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
33	断線検出（メーター出力コネクター）	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
34	断線検出（接点入力コネクター）	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
35	断線検出（センサー入力コネクター）	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
41	12V 電源 -50% アンダー	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
42	12V 電源 -15% アンダー	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
43	12V 電源 +15% オーバー	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
44	± 15V 電源 - 15% アンダー	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
45	± 15V 電源 +15% オーバー	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。

復帰動作と保護動作

エラーコード	内　　容	処　　置
51	非常停止ボタン押下	・リセットし、非常停止ボタンのロックを解除して、運転準備を入れてください。
52	M/C 準備異常	・リセットし、再度運転準備を入れてください。 ・再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
53	M/C 停止異常	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
61	リーントルク値異常	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
62	ステアトルク異常	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
101	R軸ドライバー受信タイムアウト	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
102	L軸ドライバー受信タイムアウト	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
103	S軸ドライバー受信タイムアウト	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
104	R軸ドライバーレディ異常	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
105	L軸ドライバーレディ異常	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
106	S軸ドライバー レディ異常	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
111	R軸ドライバーアラーム	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
112	L軸ドライバーアラーム	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
113	S軸ドライバーアラーム	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。

エラーコード	内　　容	処　　置
201	R 軸溜まりパルス異常（リミット）	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
202	L 軸溜まりパルス異常（リミット）	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
203	S 軸溜まりパルス異常（リミット）	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
204	R 軸溜まりパルス異常（100%）	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
205	L 軸溜まりパルス異常（100%）	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
206	S 軸溜まりパルス異常（100%）	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
207	R 軸溜まりパルス異常（75%）	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
208	L 軸溜まりパルス異常（75%）	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
209	S 軸溜まりパルス異常（75%）	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
211	R 軸エンコーダーデータ異常	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
212	L 軸エンコーダーデータ異常	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
213	S 軸エンコーダーデータ異常	・リセットし、再発するようならシステムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
221	R 軸エンコーダーバッテリーアラーム	・当社までご連絡ください。
222	L 軸エンコーダーバッテリーアラーム	・当社までご連絡ください。
223	S 軸エンコーダーバッテリーアラーム	・当社までご連絡ください。
224	R 軸エンコーダーバッテリーワーニング	・当社までご連絡ください。
225	L 軸エンコーダーバッテリーワーニング	・当社までご連絡ください。
226	S 軸エンコーダーバッテリーワーニング	・当社までご連絡ください。
251	オーバーヒートアラーム	・ファンが最大風量で回り冷却します。しばらくお待ちください。 ・ 15分ほどしてからリセットしてください。 ・ 15分ほど待ってもリセットできない場合は当社までご連絡ください。
253	オーバークールアラーム	・機器が冷えすぎていますので、室内を暖房し、しばらくお待ちください。 ・ 15分ほどしてからリセットしてください。 ・ 15分ほど待ってもリセットできない場合は当社までご連絡ください。

復帰動作と保護動作

エラーコード	内　　容	処　　置
301	ファイルからの電子ボリューム値の取得ができませんでした。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
302	SndMan()関数に無効なパラメーターが渡されました。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
303	サウンドボードとの通信が確立できませんでした。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
304	サウンドボード側のソフトウエアが異常を発見しました。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
305	RS-232C受信でバッファがあふれてしまいました。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
306	RS-232C受信でフレーミングエラーが発生しました。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
307	RS-232C受信でパリティーエラーが発生しました。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
308	RS-232C送信でエラーが発生しました。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
309	RS-232C送受信中にエラーが発生しました。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
310	SndMan()内部でWindows-API (RS-232C)がエラーを返した。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
311	SndMan()内部でWindows-APIがエラーを返した。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
312	サウンドマネージャが正しく初期化されていません。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
313	WAVEファイルの再生に失敗しました。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
314	COMポートが他のプロセスによって使用されています。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
315	COMポートが使用できません。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
316	サウンドマネージャ呼び出しで未知のエラーが発生しました。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。

エラーコード	内　　容	処　　置
401	IGからの受信が一定時間ありませんでした。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
501	COMポートオープンエラー	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
502	API SetCommMask()エラー	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
503	API SetupComm()エラー	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
504	API SetCommTimeouts()エラー	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
505	API SetCommState()エラー	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
506	未定義のコマンドが送られました。	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
507	制御コマンド電文送信エラー	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。
508	応答がありません	・リセットし、システムを再起動してください。 ・再起動しても再発するようなら当社までご連絡ください。

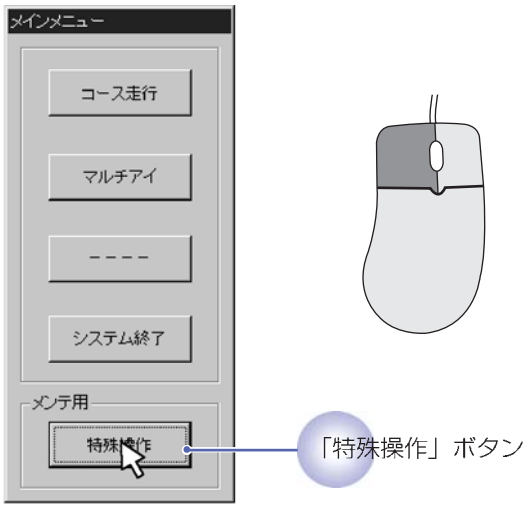
8. 保守と点検

8-1 保守について

ここでは、シミュレーターを正常にお使いいただくために、機器の状態を確認する方法を説明します。

保守モードに入る

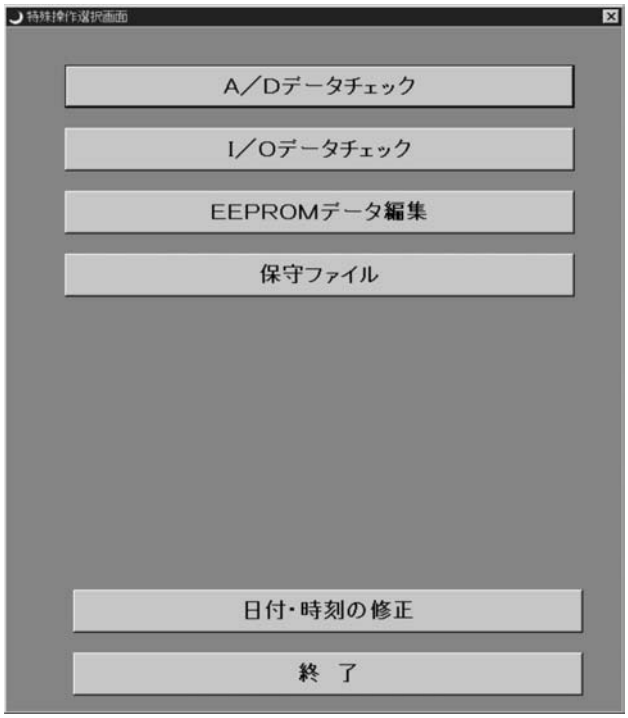
メインメニューの「特殊操作」ボタンにマウスカーソルを合わせ、マウスを左クリックします。



（メインメニュー）

保守モードメニュー

特殊操作選択画面上で表示したい項目の上にマウスカーソルを移動し、左クリックしてください。
保守モードを終了する場合は、「終了」ボタンを左クリックします。



（保守モードメニューパネル）

① A/D データチェック
モーターサイクル部のアナログセンサーの電圧をチェックします。

② I/O データチェック
モーターサイクル部のデジタル入出力の状態とサーボモーターの位置などをチェックします。

③ EEPROM データ編集
EEPROM に記録されている固有のデータの内容を確認します。

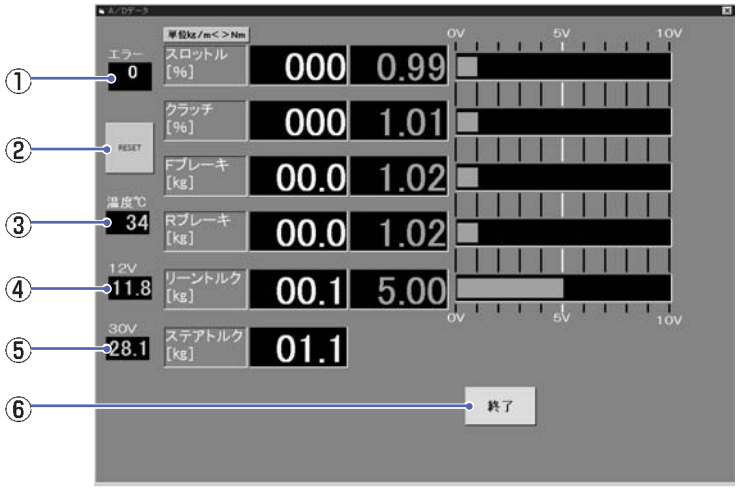
④ 保守ファイル
ログファイルを表示したり、データファイルの保存をします。

⑤ 日付／時刻修正
日付と時刻の修正をします。

⑥ 終了
メインメニューに戻ります。

A/Dデータチェック

モーターサイクルに取付けてある５つのアナログセンサーの電圧をモニターします。



（A/D データパネル）

〈各センサーの基準値〉

センサー名	無負荷時		作動時	
スロットル	0 [%]	1V	100 [%]	9V 以上
クラッチ	0 [%]	1V	100 [%]	9V 以上
Fブレーキ	＋0 [Kg]	1V	19.5 [Kg]	7.2V
Rブレーキ	＋0 [Kg]	1V	17.5 [Kg]	5V
リーン	±0 [Kg]	5V	－20 [Kg]	6.3V
			＋20 [Kg]	3.7V

赤色の数字およびバーグラフは、センサーの電圧をそのまま表示しています。
黄色の数字は[%]、[Kg]など単位を付加した表示です。
スロットル、クラッチ、ブレーキを操作したり、シート上で身体を左右に傾けたりすると各々の数字とバーグラフが変化します。（変化しない場合は、故障している可能性があります）

① エラーコード表示
エラーを検出している場合エラーコードを表示します。

② エラーリセットボタン
検出したエラーをリセットする場合このボタンを左クリックします。

③ 温度表示
制御コンピューター内の温度を表示します。

④ 12V 電圧表示
制御用 12V 電源の電圧を表示します。

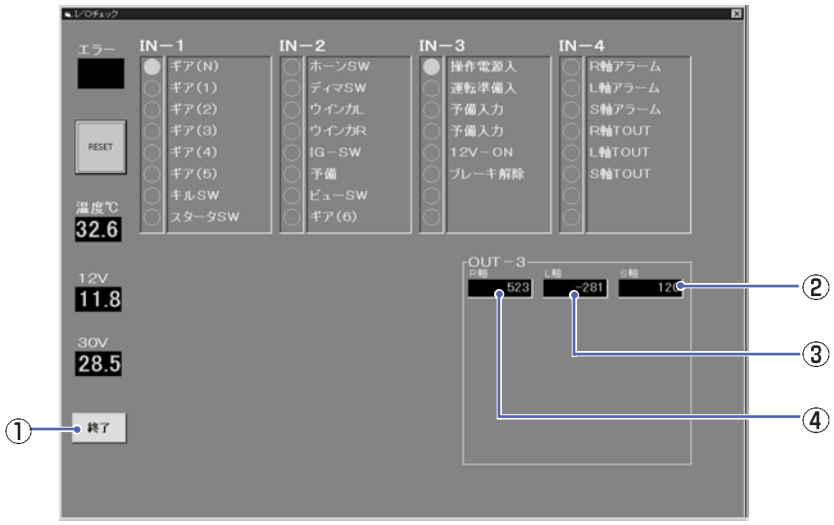
⑤ 30V 電圧表示
制御用± 15V 電源の電圧幅を相対的に表示しています。

⑥ 終了ボタン
A/D データチェック画面を終了し特殊操作選択画面に戻ります。

スロットル、クラッチ、ブレーキの動作異常および直進性、旋回性の異常などの症状がある場合は、各センサーの基準値を確認してください。
基準値と異なる場合は、安全運転普及本部教育機器課までご連絡ください。

I/Oデータチェック

制御コンピューターとモーターサイクル、サーボアンプ、制御機器間のデジタル入出力状態をモニターします。



（I/Oチェックパネル）

デジタル入出力の各項目がシミュレーターの操作によりそれぞれONすると、各項目のインジケーターが入力は緑色、出力はピンク色に点灯し、入出力状態を表示します。（点灯しない場合は、故障している可能性があります）

IN-1～2：　モーターサイクルからの入力
IN-3：　制御部からの入力
IN-4：　サーボモーターからの入力
OUT-3：　サーボモーター位置

> モーターサイクルの各スイッチを操作しても動作しない場合は、このI/Oチェックパネルで入出力状態を確認してください。

① 終了ボタン
I/Oチェック画面を終了し保守モードメニュー画パネルに戻ります。

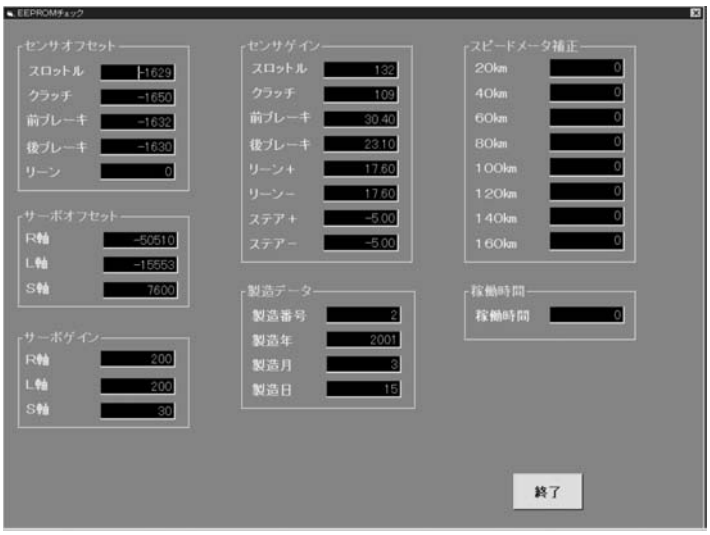
② S軸位置表示
ステアリングサーボモーターの現在位置をパルス数で表示します。

③ L軸位置表示
サーボモーターの現在位置をパルス数で表示します。

④ R軸位置表示
右側サーボモーターの現在位置をパルス数で表示します。

EEPROMデータ編集

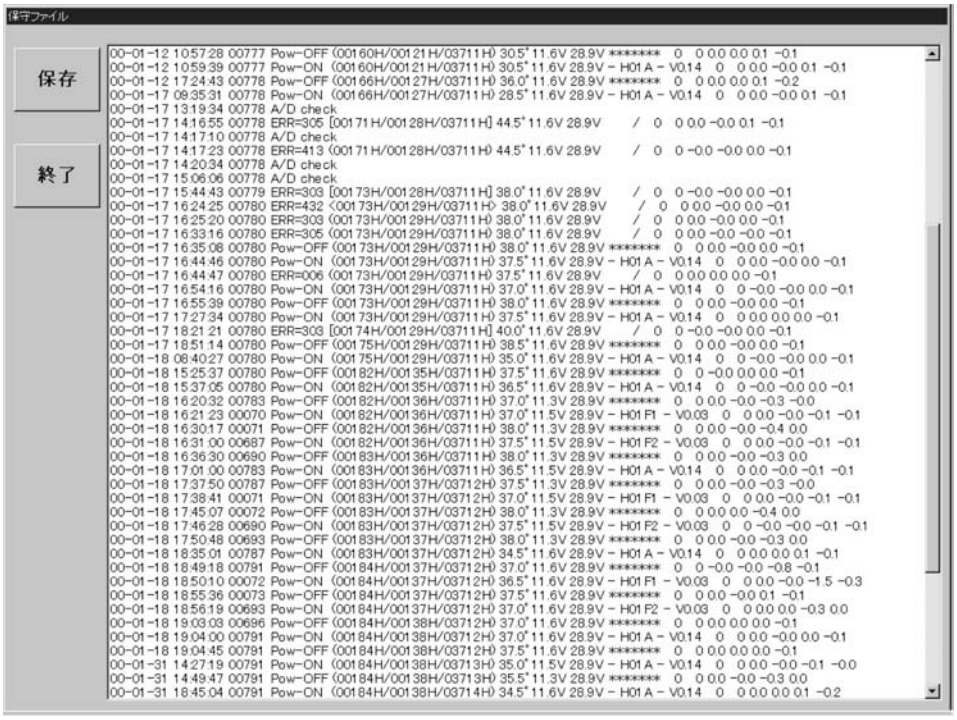
EEPROMに記憶されているシミュレータ固有のデータを確認することができます。



（EEPROMチェックパネル）

保守ファイル

システムの起動や終了、エラーの発生などの経歴情報を書き込んであるログファイルの表示をします。例えば、エラーが発生した項目では発生日時、受講者累計、エラーコード、電源ON時間、サーボON時間、可動部ON時間、制御部内温度が記録されています。
また、「保存」ボタンを左クリックすることにより表示されているログファイルとその他メンテナンス上必要なファイルを一括してフロッピーディスクに保存することができます。
「終了」ボタンを左クリックすれば、保守モードメニューパネル（41頁）に戻ります。



（保守ファイルパネル）

保守ファイルの保存

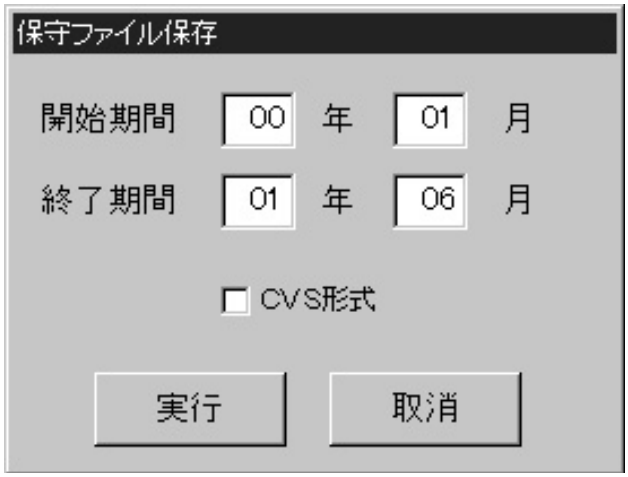
1 「保存」ボタンを左クリックすると保守ファイル保存パネルが表示されます。

2 各年月の表示窓上にマウスカーソルを合わせ、左クリックするとそれぞれの数値がキーボードから入力可能になます。年は西暦の下2桁、月は1桁の場合頭に"0"をつけて入力してください。

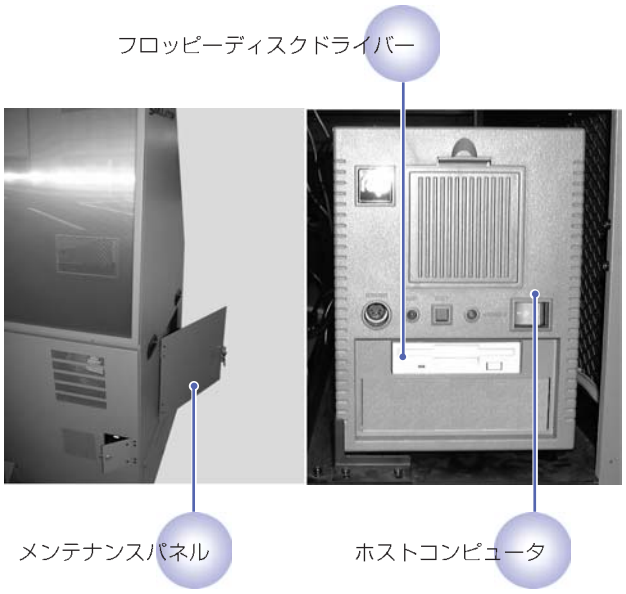
3 桁数がいっぱいで入力できないときは、キーボードの「Delete」デリートまたは「Back space」バックスペースキーで先の数字を消去してから入力してください。

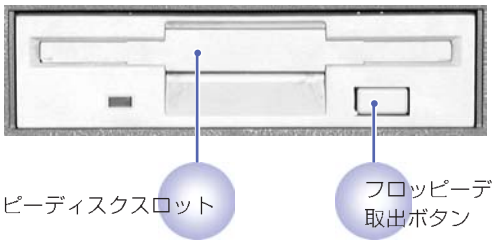
4 「CVS形式」の項目は特に何もしなくてもOKです。

5 各年月の入力が終了したら、スクリーンボックス右側のメンテナンスパネルを開き、ホストコンピューターのフロッピーディスクスロットにフロッピーディスクを差し込みます。



（保守ファイル保存パネル）





フロッピーディスクは、3.5インチ2HDのものをご使用ください。

6 「実行」ボタンを左クリックします。ここで「取消」ボタンを左クリックすると画面は保守ファイルパネルの表示画面に戻ります。

7 保守ファイル保存の設定期間が長く、１枚のフロッピーディスクに入りきらないような場合は、「次のフロッピーディスクをセットしてください」というメッセージ画面が表示されます。その場合は、新しいフロッピーディスクをセットしなおしてから「OK」ボタンを左クリックしてください。

8 フロッピーディスクを入れ忘れて「実行」ボタンを左クリックした場合は、「フロッピーディスクをセットしてください」というメッセージ画面が表示されます。その場合はフロッピーディスクをホストコンピューターにセットしてから「OK」ボタンを左クリックしてください。

9 保守ファイルのフロッピーディスクへの保存が終了すると「フロッピーディスクを取り出してください」というメッセージ画面が表示されます。その場合は、ホストコンピューターからフロッピーディスクを取り出し、「OK」ボタンを左クリックしてください。画面はログファイルの表示画面に戻ります。

10 スクリーンボックスのメンテナンスパネルを閉じ、鍵をかけます。

※ 注意：保守ファイルを保存するフロッピーディスクは、内容をすべて書き換えられ、以前のデータはすべて失われます。

アドバイス
フロッピーディスクを挿入したまま電源のON、OFF を行わないでください。
正常に起動しなくなります。

保守ファイルについて

シミュレーターが正常に機能しているかを確認するファイルで、データファイルとログファイルの２種類があります。
データファイルは、保守ファイル保存を実行した瞬間の各センサーやサーボモータの状態、制御部内温度や制御電圧など、多項目にわたってファイル化します。このファイルの内容を調査することで、ある程度の故障診断をすることができます。データファイルは瞬間的に詳細なデータを収集します。
ログファイルは、システム起動やシステム終了、エラーの発生などシミュレーターに何らかの変化が起こったときに、日時や稼働時間、制御部内温度や制御電圧、センサーの状態などをファイル化します。このファイルの内容を調査することで、ある程度の故障予測をすることができます。ログファイルは長期的に重要なデータだけを収集します。

日付／時刻修正

日付および時刻の設定ができます。
設定しようとする項目の窓にカーソルを合わせ左クリックすると、カーソルが窓の中に入り入力ができる状態になります。
データがすでに入力されている場合は「Delete」デリートキーまたは「Backspace」バックスペースキーで旧データを消してから入力してください。
設定する項目全ての入力が終了したら「記憶」ボタンを左クリックして下さい。これをしないと変更後のデータに設定されません。

（日付・時刻の修正パネル）

「取消」ボタンを左クリックすれば、保守モードメニューパネル（41頁）に戻ります。

8-2 故障と思ったら

修理を依頼される前に次のことをご確認ください。

こんなとき	ここを確認してください。
電源スイッチを入れても全ての機器の電源が入らない	1. コンセントが外れていませんか。 2. 配電盤のブレーカー（施設側）はONになっていますか。
電源スイッチを入れたがカラーモニターがONしない	1. カラーモニターの電源スイッチがONになっていますか。 2. カラーモニターのコンセントが外れていませんか。
カラーモニターの電源はONしているが映像が映らない	1. カラーモニターの映像信号コネクターが外れていませんか。
マウス、キーボードからの操作ができない	1. マウス、キーボードのコネクターが外れていませんか。
運転準備が入らない	1. 運転準備キースイッチが「ON」になっていますか。 2. 非常停止ボタンが解除されていますか。 3. カラーモニターにエラーが表示されていませんか。
運転準備は入っているのにエンジンがかからない	1. 走行画面になっていますか。（スタートボタンを押しましたか） 2. キルスイッチがOFFになっていませんか。 3. 走行操作パネルの「中断」ボタンが押されていませんか。 4. 再生画面になっていませんか。
スピーカーから音が出ない、又は小さい	1. システムメニューパネルの音量調節がMINになっていませんか。
走行風が出ない、又は少ない	1. システムメニューパネルの風量調節がMINになっていませんか。

8-3 点検について

シミュレーターを快適にご使用いただくために、１年ごとの定期点検と使用前の日常点検を実施してください。
１年ごとの定期点検は弊社安全運転普及本部教育機器課までご依頼ください。
日常点検は51頁のチェックシートをコピーして各点検項目に沿って点検してください。

電源スイッチを入れる前に	
電源コンセント	• 緩みやガタなどがありませんか。
モーターサイクル	• モーターサイクルにガタや傾きはありませんか。 • ハンドル、シートにガタはありませんか。 • スイッチ類、ペダルにガタはありませんか。 • 稼働範囲に干渉物はありませんか。 • フレームや床にオイル汚れはありませんか。
スクリーンボックス	• スクリーンボックスにガタはありませんか。 • スクリーンは汚れていませんか。 • スクリーンボックス後面および左側面のフィルターはほこりで詰まっていませんか。
電源を入れてから	
モーターサイクル	• 傾いていませんか。 • 各スイッチ、メーター、各インジケーターランプは正常に動作しますか。
プロジェクター	• 映像の傾きやズレはありませんか。 • 明るさ、コントラスト、フォーカスは正常ですか。
走行にて	
モーターサイクル	• 直進でき、傾き、違和感、異音などがありませんか。
非常停止	• 非常停止を押してモーターサイクルの動きが止まりますか。
スピーカー	• 左右のスピーカーから音が出ていますか。 • 音に歪などはないですか。 • 効果音は正常に出ていますか。
走行ファン	• 左右のファンから風が出ていますか。 • 異音はありませんか。 • 速度が上がるにつれて走行風は強くなりますか。

仕様

形式			RC-K00
運転装置	操舵部		ハンドル式
	乗車部		乗車位置可変（シート交換式）　自動二輪 ←→ 原付
	制動部		油圧式（フロント/リヤ）
	変速装置		6速リターン式
	駆動装置	回転方式	ACサーボモーター×1（ステア） ACサーボモーター×2（ピッチ&ロール）
		揺動角度	ロール軸（±15°）、ピッチ軸（±10°）、ステア軸（±25°）
主制御装置	専用電子計算機		DOS/V 規格コンピューター
	周辺装置		ベースバンド伝送方式　他
	映像発生装置	方式	CGI方式
		視野角	水平58°以上/垂直35°以上（基準点にて）
		画面の更新回数	30フレーム/秒
表示装置	映写装置	方式	三原色液晶シャッタ投影方式（プロジェクター）
		前方視界映写部	56インチ画面（4：3）
		後方視界映写部	前方視界内に表示
	速度指示装置類		専用コンビネーションメータ
	指導員確認用表示装置		17型CRTカラーディスプレーモニター
音響発生装置			PCM 2ch ステレオ方式
ファン装置			インバータ制御
再生装置			マルチアイによるデータ再生
温湿度条件			使用温度：15～30℃、 保存温度：−15～50℃、湿度：20～80％（ただし結露しないこと）
電源			AC100V±10%　50/60 Hz、20 A（3種以上のアース要）
消費電力			1.5 kW
外形寸法			2330（奥行き）×1185（幅）×1740（高さ）
重量			約312 kg
主な添付品			主電源スイッチ扉キー、運転準備キー、メインスイッチキー（各キー×2） 乗車部シート（原付用）、プロジェクター用リモコン（ボタン電池付） 本取扱説明書、教材説明書、 各機器取扱説明書（カラーモニター、プロジェクター）、 パソコンの基礎操作編、保証書

●この仕様は、お断りなく変更することがあります。
●この機器を使用できるのは、日本国内のみで、外国では電源電圧などが異なりますので使用できません。

日常点検チェックシート

電源スイッチを入れる前に										
電源コンセントのガタ										
モーターサイクルのガタ、傾き										
ハンドル、シート、ステップのガタ										
スイッチ類、ペダル類のガタ										
干渉物の確認										
オイル等の汚れ、漏れの確認										
スクリーンボックスのガタ										
スクリーンの汚れ										
スクリーンボックスフィルターの埃										
電源スイッチを入れてから										
モーターサイクルの傾き										
モーターサイクル操作系の確認										
モーターサイクルメーター標示の確認										
ウインカー、ストップランプの点灯										
スクリーン映像の傾き、ズレ										
スクリーンの明るさ、コントラスト										
コース走行にて										
走行確認（走る、曲がる、止まる）										
異音、違和感、傾き										
非常停止ボタンの動作										
スピーカーからの音										
走行風										
点　検　日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
点　検　者										
記　事										

※この用紙をコピーしてご使用ください。

ご依頼・お問い合わせ用紙

修理依頼、お問い合わせ、ご意見などは、この用紙をコピーして下記宛にFAXまたは郵送にてお送りください。

お送り先　本田技研工業株式会社　安全運転普及本部　教育機器課
〒350-1381　埼玉県狭山市新狭山1丁目10番地の1　ホンダエンジニアリング内
TEL. 042-955-5831　FAX. 042-955-5837

年　月　日	ご担当者
お客様名	
ご住所　〒　都道府県	
TEL.　－　－　内線（　）	
FAX　－　－	

稼働内容記録（「システム終了」を参照	
電源ON時間	H
サーボON時間	H
可動部ON時間	H
制御部内部温度	℃

その他の記録	
プロジェクター使用時間	H

シミュレータの現在の状況について

●症状は　・・・が動かない（表示しない）

●異常が起きたときはどんなとき　立ち上げ時、乗車中・・・など

●表示されているエラー番号は　複数検出している場合があります

●ご用件内容（具体的に記入してください。一枚で書ききれない場合には、別紙を添付してください。）

索　引

五十音順

あ行

アイコン……6
アナログセンサー……6
移動ボタン……29
運転準備キースイッチ……1、10、34
運転準備パネル……11、34、35
運転準備表示ボタン……15
運転状況モニター……18、19
映像調節・入力切替えボタン……18
映像モニター……18
エラー……34，44
エラー解除……35
エラー検出……35
エラーコード……34、35、36、44
エラーコードパネル……35
エラーコード一覧表……36
エンターキー……7
オイル警告灯モニター……19
応用ソフト……13
お問い合せ先……55
オペレーションデスク……1
音量調節……21

か行

カーソル……6、7
解除レバー……2、5
稼働部電源ボックス……1、10
カラーモニター……1
ギアポジションモニター……19
キーボード……1、7、14
基本ソフト……13
霧ボタン……20
クラッチ/ブレーキ切替えボタン……2、5
クラッチモニター……19
クリック……6、7
継続ボタン……20、27
後退スキップボタン……30
後退ボタン……30
後輪ブレーキモニター……19
コース状況パネル……12、18、22
コース図の移動方法……23
コース図の拡大・縮小方法……23、24
コース図パネル……12，18、23、24、25
コース設定パネル……17
コース設定ボタン……16、17
コース選択ボタン……16
コース走行ボタン……12
コピーボタン……28

さ行

サイズ・位置を戻す方法……25
再生（マルチアイ）ボタン……20、27
再生速度ボタン……30
サイドビュースイッチ……2
削除ボタン……29
シートリリースレバー……2、4
自車視点ボタン……30、32
自車視点モード……26、31
視点モードボタン……31
自動追従設定……23
シフトキー……7、32
氏名入力窓……14
車種メニューボタン……5、16
受講者 No.設定ボタン……5、16
主電源スイッチ……3、10、33、34
信号機点灯状態表示……22
ズーム……22、23
スカイボタン……30、32
スカイモード……26、31
スクリーン……1
スクロール……6
スクロールバー……8
スクロールホイール……6
スタート地点選択ボタン……17
スペースキー……7
性別メニューボタン……14
前進スキップボタン……30
前進ボタン……30
選択範囲拡大……24
前輪ブレーキモニター……19
走行開始コース設定ボタン……15
走行コース数……13
走行終了コース設定ボタン……15
走行条件設定パネル……5、12、15、33
走行操作メニューパネル……18、20、27
走行モード……13、15
走行モードメニューボタン……15
ソートボタン……28
速度モニター……19
ソフト分類……13、15
ソフト分類メニューボタン……15

索　引

た行

他車視点ボタン ……30、31、32
他車視点モード ……26、31
ダブルクリック ……6、23、27
中断ボタン ……21、27
定期点検 ……47
停止ボン ……30、32
デリートキー ……7、47
電源ランプ ……10、34
特殊操作ボタン ……41
ドラッグ ……6、8、25

な行

日常点検 ……49
2 点間距離の測定 ……25
年齢設定ボタン ……14

は行

バージョン情報 ……21
バードボタン ……30、32
バードモード ……26、31
背景選択ボタン ……16
ハイビームランプモニター ……19
バックスペースキー ……7、47
場面選択ボタン ……17
非常停止ボタン ……1、10、34
日付/時刻修正 ……41、47
日付/時刻の修正パネル ……47
昼ボタン ……20
ファイル選択ウインドウ ……28、29
ファイル選択パネル ……27、28、29、33
ファイル名変更ボタン ……29
風量調節 ……21
フォルダー選択ボタン ……28
ブレーキモニター ……19
プロジェクター ……21
プロジェクター設定 ……21
フロッピーディスクスロット ……45
フロッピーディスクドライバー ……45
フロッピーディスク取出ボタン ……45
方向指示器モニター ……19
保守ファイル ……41、44、47
保守ファイルパネル ……46
保守ファイル保存パネル ……45
保守モード ……41
保守モードメニュー ……41
保守モードメニューパネル ……41
ホストコンピューター ……45
ホバリングボタン ……30
ホバリングモード ……26、31、32

ま行

マウス ……15、16
マルチアイ操作メニューボタン ……30、32
マルチアイボタン ……27
ミッション選択ボタン ……5、16
メインスイッチ ……2
メインメニューパネル ……11、12、33、41
メッセージパネル ……8、21
メッセージ表示窓 ……21
メンテナンスパネル ……45
モーターサイクルユニット ……34

や行

矢印キー ……7
矢印ボタン ……8
夜ボタン ……20

ら行

ログファイル ……41、44、47

アルファベット順

A/D データチェック ……41
A/D データパネル ……42
Back Space キー ……7、47
Delete キー ……7、47
EEPROM チェックパネル ……49
EEPROM データ編集 ……41、44
ENTER キー ……7
I/O チェックパネル ……43
I/O データチェック ……3
L 軸位置表示 ……43
RGB ボタン ……21
R 軸位置表示 ……43
SHIFT キー ……7、32
SVIDEO ボタン ……21
S 軸位置表示 ……43
VIDEO ボタン ……21

保証とアフターサービスのご案内

保　証　書

この製品には保証書を別途添付してあります。保証書は、当社担当営業マンより受け取っていただき、必ず内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保　証　期　間

お買いあげ日から１年間です。
１年以上の保証につきましては、当社に保守契約を別途委託されることをお勧めいたします。

修理を依頼されるときは

「故障と思ったら･･･」にしたがって調べていただき、なお異常があるときはご連絡ください。また、詳しい状況につきましては、「ご依頼・お問い合わせ用紙」に必要事項をお書きのうえ、FAXしてください。

保証期間中は

保証書の規定にしたがって当社サービスマンが修理させていただきます。

保証対象部品は

シミュレーターを構成する全部品です。
ただし消耗品および油脂類は除きます。

消耗部品とは

各種ランプ類、フィルター、ワイヤー類、内部バッテリー、ラバー類、シート、マウスなどが該当します。
定期交換、および修理の際に実費としてかかるものです。

保証期間が過ぎているときは

保守契約されている場合

無料で修理いたします。（ただし、消耗部品につきましては、実費をいただきます）
また、年１回の定期点検を実施します。

保守契約されていない場合

有料で修理いたします。

●技術料　故障した部分を正常に修復するための料金です。サービスマンの人件費、一般管理費などです。

●部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合があります。

●出張料　サービスマンを派遣する場合の費用です。交通費、宿泊費などです。

お問い合せ先

本田技研工業株式会社　安全運転普及本部　教育機器課
〒350-1381
埼玉県狭山市新狭山１丁目10番地の１　ホンダエンジニアリング内
TEL. 042-955-5831
FAX. 042-955-5837

● この取扱説明書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。
● この取扱説明書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
● この取扱説明書の内容について万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点などお気付きになりましたら、お手数ですが当社までご連絡ください。
● 乱丁、落丁の場合には、お取り替えいたします。

HONDA

お問い合わせ先/本田技研工業株式会社　安全運転普及本部　教育機器課
〒350-1381　埼玉県狭山市新狭山1丁目10番地の1　ホンダエンジニアリング内　TEL. 042-955-5831　FAX. 042-955-5837

●本資料の内容は、2001年7月現在のものです。

0PA2T1.2001.08